

五

稜

第32号 (平成4年度)

遠 足



春の遠足 (2A)



春の遠足 (2A)



春の遠足 (1A)



春の遠足 (赤川)

入 学 式



式 辞



生徒代表挨拶



学級指導



新入生歓迎会

中 体 連

校内体育大会



野 球



1 年 リレー



卓 球



1 年 100m



バレーボール



2 年 100m



陸 上



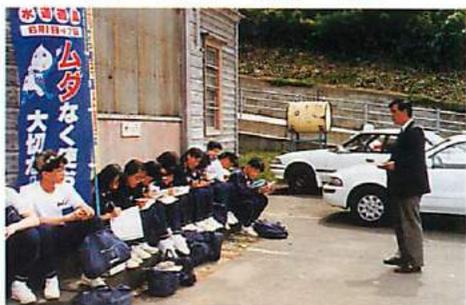
3 年 100m

文化祭

宿泊研修



展 示



班 学 習



オ ー プ ニ ン グ



夕 食



弁 論



檜 山 支 庁 跡 に て



合 唱



横 山 家 に て



学級 スナック



学級レク (1 D)



体育大会 (1 A)



校庭 (2 A)



教室風景 (1 B)



体育大会 (2 B)



給食 (1 C)



修学旅行 (3 B)



教室風景 (3 - C)



開陽丸



サンタ・マリア号 (3 D)



赤川水源地 (2 D)



教室風景 (3 E)



尾去沢 (3 A)

生徒会



生徒総会

授業風景



試験



新入生歓迎会



進路指導



座談会



技術・家庭



立候補者



体育

✿平成4年度教職員✿



目 次

○グラビア写真

○巻 頭 詩	1
自分を磨く	校長 堀井 透 2
心豊かな人生を	PTA会長 廣部七郎 3
“卒業” というきら星を見るこの時	教頭 斎藤正宏 4
新総務抱負を語る	5
一年を振り返って	7
生徒会一年の足跡	9
専門委員会〈活動報告〉	13
贈る言葉 学年関係の先生・職員から	17
在校生より	23
卒業生より	24
部 活 動 〈一年間の活動報告〉	25
思い出をこのページに残して	33
旅での触れ合いに学ぶ（修学旅行）	45
栄誉を讃えて	50
学級プロフィール	52
宿泊研修旅行	57
座 談 会 〈活動報告〉	59
文 苑	62
職員名簿	71
編集後記	72



道

三年 大島典子

私は長い道を歩く
どこまでも果てることのない道を
ゆるぎない信念を持って
確実にそして一歩ずつ

私は険しい道を歩く
挫折しそうになっても
未来への夢と希望が
打ち勝つためのパワーをくれる

いつまでも夢を追いかけて
前向きに進みたい
充実し
一番輝いている自分と共に

私はどこまでも歩く
人とはちがった
自分なりの道を求めて



「自分を磨く」

五稜中学校長 堀井 透

私の中学生の頃は、日本が第二次世界戦争に敗けた直後で、国内は混乱を極め食料をはじめ、あらゆる生活に必要な物資が極端に不足しておりました。教科書や教材なども殆ど無く、学習も満足に出来ない状況でした。

中学三年になって、やっと新しい教科書が配布されましたが、それは新聞紙に印刷された大変に粗末なもので、一カ月も使うとボロボロになる始末でした。街の本屋の棚には、一冊の本もなく、テレビは勿論、ラジオすら持っている家が少なく、当時の中学生は極端に情報の乏しい不自由な中で暮らしていたと言えます。それだけに、新しい知識や情報を求める気持は大変強いものでありました。

ところで、今日、皆さんは日本の歴史始まって以来の物質豊かな社会や家庭の中で育ってきました。今や、我が国は世界有数の経済大国となり、欲しい物は、安易に皆さんの手に入れることが出来るようになりました。

又、マスメディアが著しく発達し、店先には新刊書が氾濫するなど、皆さんの周りには映像、音声、活字等おびただしい情報が溢れております。だが、物質の豊かさと逆比例し、従来、日本人が持っていた素晴らしい心が失われてしまったと言われております。

このことは、皆さん一人一人の心にも色々な形で影響を与えていると考えなければなりません。豊かさの中で育ち、貧乏で苦しんだ経験を持たない人は、苦しさで耐えて努力する事から避けて、楽な方向に逃げようとする気持ちになり易いと言われております。

果して、皆さんの心の中に、このような気持ちが潜んでいないと自信を持って断言できるでしょうか。

さて、皆さんが社会に出て活躍する二十一世紀の時代には、さまざまな、複雑で困難な問題に立ち向かわなければならぬと予測されております。皆さんは、これからの人生の中で遭遇する幾多の試練を、自らの力で乗り越え、自らの人生を切り拓いていかなければなりません。そのために、今のうちから、常に厳しく自分を鍛え「耐える力」や「努力する心」をしっかり身につけて欲しいと思います。

目前の苦しさから逃げ、只、時の流れの中に、或いはその上に乗って、漫然と生きるのではなく、自ら進んで困難に立ち向かい、あくまでも貫き通す強い意志を持ち続け、何事にも果敢に挑戦する人になって下さい。

「石の上にも三年」という諺があります。このことは一見、不可能で実現が困難と思える事でも、長い間の辛抱、根気強い努力によって可能にし、実現することが出来るという教訓です。又「艱難辛苦、汝を玉にする」という言葉もあります。

たくさんの苦しみ、悩み、辛いことを経験し、それに打ち克つた人は立派な人物に育つという意味です。志を高く掲げ、自分を磨く努力を惜しまず、それぞれの人生を力強く歩んで欲しいと心から期待しております。



「心豊かな人生を」

PTA会長 廣部 七郎

三年生の皆さん、いよいよ卒業の時期が来ましたね。月日の経つのは早いもので、三年前まだブカブカの学生服を着て緊張した顔で入学に臨んだ記憶が、目に浮かびます。改めて三年間を振り返ると感無量の思いが、走馬灯のように駆けめぐる事でしょう。

さて、私がPTA会長になってから、二年間君達と楽しく過ごしてこられた事を、心から感謝いたします。

中学校の三年間は、心も身体も、不安と疑問が交差し、親、先生の注意にも反抗的になってしまふものです。また別の角度から見ると鋭い感受性に満ちた時期として、あるいは、ガラガラした青春のエネルギーの爆発の時期として、更には、真の友情や愛をひたすら模索し続けた時期として、後年この時代を思い出す時、何とも名状し難い、ある意味では悔恨に満ちた青春の一コマになる事と思えます。

君達は、義務教育は終わりだが、これから新しい人生の始まりとなるのです。

世界には何十億の人間がいる、私も世界にたった一人しかいない。君達も同じである。人間の生命の誕生は神秘であり、またこの世に生まれてこなくても生まれてこない人もいるだろうし、大変な確率のもとに生を受けたのだと思う。しかも人生はたった一回しかない。それなら人間らしく心豊かに生きたいものです。

人間は誰でも、楽しく、明るく、心豊かに生きる権利をもっている。それなのに自らその権利を放棄して、暗く淋しい人生を送っている人もいる。人間は考え方や行動を変えれば、素晴らしい人生が送れるのに、そこに気づかないで生きている人が多いのは、残念でならない。五十才を過ぎた私でさえ、考えと行動がちぐはぐになり、初心に戻って考える事が、たびたびであります。

卒業後、それぞれの進路に分かれて行くわけですが、君達はまだ人生のほんのわずかしか歩んでいません。これから色々な壁にぶつかる事があると思いますが、逃げることなく堂々とぶつかって行って下さい。壁は厚い程、それを破った時、人間として大きく成長します。

「初心を忘れる事なく」「最善を尽くして」進んで行って下さい。

最後に一言

たった一人しかいない：自分 たった一回しかない：人生を 人間らしく：心豊かに生きたいものです



「卒業」というきら星を見るこの時

教頭 齊藤 正宏

テニスのボリス・ベッカー選手は、試合のマンナーのいい理由を聞かれ「ドイツ人だから」と答えたという。卒業生の皆さん、一人一人の言葉や行動で築いたこの雰囲気での生活を支えに「五稜中学校出身だから」と答えてみませんか。

自分が大人になった今、思い起こすと中学時代に印象深い言葉に出会うチャンスがあった。短い一言がグサリとささって、いつまでも抜けないことだ。親の仕事の関係で私は田舎の中学生であった。生徒玄関の辺りを走り回り、何か悪さをしていたんだと思う。その時生徒役員が通りかかり、たぶん「やめなさい」と言っただけです。見とめられたからといってすぐやめず、言いのがれをしたのだらう。その時上級生の発した「そんなことする生徒は嫌いだ」という言葉だけは、今でも苦しみを伴ってよみがえってくる。と同時にこう思う。人をしかけてもよい。しからねばならないことが多い。しかし、言葉の使い方には十分気をつけねばならないのだ、と。

やはり中学生の時である。多くの村人は山すそにある旅館の温泉を利用してはいた。ある日の帰りぎわ、顔見知りのPTA役員さんがアメをくれた。私は「すみません」と言ったが、おっかぶせるように「すみませんではない、ありがとうと言え」という言葉が返ってきたのである。アメをほおばり、弟と何を話しながら家へ向ったか覚えていないもの、これまた四十年近くなる今になっても、夏の夜に満天の星がきらめいていたこと共にしっかりと思い出せる。ただし、今度はグサリとささるのではない。「ありがとう」という言葉は何とすばらしいことか。十二月の中ごろ、私にとって最後の卒業生として担任をした当時の女生徒が訪ねて来た。成人式以来であるから会うのは一年ぶりである。職業人としての喜び、苦惱。大人になって大用件を終えた後、ふと口にした彼女の言葉が胸に響いた。こちらはすっかり忘れていたことなのに、中学二年生の時新しく受け持たれ、最初に言われた言葉をちゃんと覚えていて言う。「君、目を背けるんじゃないよ、相手の目を見ながら話すもんだ」「過去はそりゃ消せないよ、でも新しい学級としてスタートしたのだから、君自身で納得のいく行動を見せてくれりゃいいんだよ。期待してるよ」長い話に慣らされていたのがあっけにとられ、「今度の先生はおっかなそうだけど、三組の生徒だと言えるようになるらう」と、はぐれ者二人が支え合っただのことであった。私はとっさに「今と同じで、優しさの固まりだったらうや」と言い、「ウフフッ」と彼女が笑っているすきに、心の冷や汗をぬぐい去ったのである。彼女は公務員試験に合格して役所に、他の一人はデパートに勤めて活躍している。

言葉は魔物である。しかし、集団での生活に欠かせない。学級の仲間の中ですら言葉の功罪は計り知れないし、それに行動が絡むからなお複雑になる。ましてや、卒業後の新しい社会では一層奥が深い。相手を大切にして言葉を交わし、それに伴った行動をすることが求めらる。卒業」というきら星を見るこの時、私自身「五稜中学校の職員であるから」と言える仕事をしたのか問い返してみよう。

新総務抱負を語る

生徒会は何を語る!!

会長 柏 充

「生徒会とは……?」

この言葉が会長としての仕事の第一歩でした。去年は書記として一年間活動してきて感じたことは、生徒会についての役割や、仕組みを知らない人が多数いるということです。ここで改めて、みなさんに、何のために「生徒会」が存在するのか考えてみてほしいと思います。

今年度「五年度 後期」は、「自治的な生徒会」を目指し取り組んでいこうと思います。そのためにも、皆さんが生徒会に対して、もっと意見を出し、誰もが生徒会の一員であるということを自覚してもらいたいと考えています。生徒と生徒会、生徒と先生、生徒会と先生という親密な関係があってこそ、充実したより良い学校になるのではないのでしょうか。また前期から引き継いだ、挨拶運動、ボックス・BOXを大いに活用し、更に新しい活動、また生徒側からの要望実現に向け精一杯頑張っていきます。生徒会は、とても重要な機関であり、一人一人の協力が重要です。これからは、みなさんと共に、一年間学校生活を有意義なものにするよう一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。

これからの生徒会にむけて

副会長 齊 藤 真由美

私が生徒会総務の一員となり、何ヶ月かがたちましたが、まだ慣

れない仕事があります。しかし、みなさんの御支持を受け、副会長という重役を務めています。

副会長としてこれから活動していく上で、私が第一に思うことはやはり協力することの重要性についてです。総務・各委員、そして生徒一人一人が一体となって、これからの生徒会を支えていくことがとても大切だと思います。この先、この「協力」というものを用いて、「よりすばらしい五稜中学校」を築いていけたらと思っています。そして私自身、納得のいく本当の生徒会役員になれるよう、努力していくつもりです。みなさん、よろしく願います。



後期 生徒会総務

会長	副会長	書記	計	会
柏 充	岩間 政和	斎藤 真由美	佐々木 智哉	河元 美佳
			金沢 秀司	川股 礼奈

それからからの生徒会

副会長 岩 間 政 和

副会長になり、忙しさが日に日に増してきて、勉強との両立ももっとも力を入れなければ時期になってきました。

三年生の方々は受験を終えて極楽を楽しみ、人生への第一歩を踏み出したのではないのでしょうか。

これからも、入学式等で大変忙しくなると思います。

しかし、それを乗り越えて五稜中学校のために大した事は出来なと思いますすががんばりたいと思います。

そして、あと五稜中学校にいられるのも約一年、その半分は五稜中学校の生徒会総務として、もう半分は受験に向けての日々です。

この一年間を五稜中学校のためにできるだけ多く役に立ちたいと思います。よろしく御願います。

これからからの生徒会

書 記 佐々木 智 哉

生徒会総務一体となって、より活発な生徒会を築いていくと共に安心して生活を送ることができ、明るく住みよい学校を創ってきたいと思います。

また、生徒みんなの意見を十分に取り入れ、「生徒のための生徒会」を築くことを目的として、頑張っていきたいと思えます。

そして、どのような活動にも積極的に取り組み、自分のできる範囲で、最後まで精一杯努力していきます。

来年は…

書 記 河 元 美 佳

私は、生徒会に入って、初めはとても不安でした。生徒会ということだけで、かたいイメージがあったからです。でも、入ってみるとそんなことは全然ありませんでした。一人一人が努力し協力し合っている明るい場所です。そのことをわかってもらえるように、生徒会のイメージアップと、生徒会のある意味をみなさんにわかってもらえるような生徒会をつくるように努力しているみなさんと一緒に少しでも力になれるようにがんばります。

生徒会総務として

会 計 川 股 礼 奈

私は、総務として、会長や、副会長、書記のみなさんと協力してこの五稜中をもっとよい学校にしていきたいと思えます。

あいさつ運動を強化して明るい学校をつくりたいです。

そして、生徒と生徒会の結びつきを強くしていきたいと思えます。できる範囲で、生徒と生徒会の関係をよくしていきたいです。

生徒会に入って

会 計 金 澤 秀 司

生徒会総務の一員となり、もう何ヶ月かたちました。この生徒会には、先生に言われなくても自分たちから進んでやるというものが、今考えると今までだれかに言われてやっていたような感じがします。これからは、それを改善していきたいと思えます。そして、これからやってくる問題に全力でぶつかっていくつもりです。みなさんと一致団結して楽しい学校をつくりたいと思えます。みなさん、どうぞよろしくお願ひ致します。

一年を振り返って

～一步一步着実な前進を！～

会長	副会長	書記	会計
小林 優	谷口 哲将 宮腰 聖子	柏 充 西口 しのぶ	佐藤 健太郎 山川 加奈

前期 生徒会総務



道

会長 小林 優

生徒会総務の仕事は2年間やってきた。ここでは、その2年間を振り返ってみて感じたことを書こうと思う。

とにかく新しいことをやろうと、初めのうちは思っていた。が、なかなかできなかった。そして挫折。自分は実は何もできないのではないかと落ちこんでしまった。しかしそこで考えを変える。負気うのはやめよう。TAKE IT EASY、一代でバベルの塔を築きあげようとしても墮ちるのみ、願わくば礎となりて次の世代を導かん、そう思った。

果たして、私は礎となりえただろうか。それはわからない。でも道をつけることはできたと思う。それがたとえけものみちでも、進んでほしい、次の世代の者達よ。前進のみが我々の使命なのだから。

この一年をふりかえって

副会長 谷口 哲将

副会長になってからのこの一年、思えばこの短い一年の中で多くは多くの事を経験しました。たとえば生徒総会や校内体育大会などの行事やあいさつ運動をはじめとする仕事をしてきましたが、時には失敗し苦労してやった仕事もありました。しかし、今ではそれもめったにない経験として心に刻まれています。総務のみなさんにもこの一年本当にお世話になりました。最後に、新総務のみなさん、苦労にめげず、よりよい五稜中学校を築きあげてください。

二年間の仕事の中で

副会長 宮 腰 聖 子

私が総務から得たものは非常に大きなものでした。総務でないこと体験できない仕事だけでなく、それを通じて数多くの人に出会う事ができたことです。そしてその多くの仲間を支えられて、ここまでやってこれたのだと思います。仕事の面では少しも頼りにならなかつたかもしれないけれど、自分なりにやるべき事は果たせたと思います。新総務のみなさんも、仕事の大変さに負けずに、素晴らしい五稜中学校を築き上げて下さい。期待してます。

僕の生徒会活動

書記 柏 充

書記としての一年間の活動の中で、多くの人と接し、自分達の意見をのべてきました。活動を一つずつ振り返って見ても全て成功した訳ではありませんが、貴重な体験をしました。毎朝の挨拶運動、いろいろありましたが、僕にとって生徒会は「協力」という大切な事を教えてくれました。ただ一年間、時間の流れにそって、その都度対応するのが精一杯だったような気がします。今度は、会長として書記の経験を生かして頑張ります。

任期を終えて

書記 西 口 しのぶ

長いようで短かった一年が終わりました。私は、「役員として、どのくらいのことかできただろう。」そう思っています。暗くなるまで残ったり、寒い中、毎朝挨拶運動でとても大変でした。しかし、私は自分でやり残したことがあるのかどうかわかりません。も

し、やり残したことがあったら、それは新総務の皆さんに後をついで、やってもらいたいです。これからは新総務で力を合わせ、この学校をもっとすばらしい学校にしてください。

総務と会計と私

会計 佐 藤 健太郎

生徒会総務の任期を終え、まず、ほっとしていたのだが、少し時が経過し、生徒会活動が、普段の中学校生活の中で、存在感はあるのだけれど、はつきり見えないことに気付いた。

総務の活動に携わることができた私は、それらが複雑であり、困難でもあるのだが、中学校生活の中で、とても重要な責任を担っていることを身をもって体験できたことを、素晴らしいことと思う。伝統は守るだけでなく、築き上げるものだと思う。

一年を振り返って

会計 山 川 加 奈

総務としての一年間は、とても楽しくて短い一年でした。活動してきたこの一年、本当に充実した生徒会活動と良い経験をしたと思っています。生徒会総務の一員になれた事を嬉しく思い、この一年で学んだ数多くのことを忘れる事なく、これからも生徒会の一員として協力していこうと思います。

最後に、今まで御指導くださった先生方と生徒のみなさん、一年間本当にありがとうございました。

平成四年度



五月

四月からあつという間に時間が過ぎ、長かった一年も終わりました。皆さん、この一年は充実していたでしょうか。この一年間の間にさまざまな生徒会行事が行われました。その内容を思い出し、この一年間の反省も含め、もう一度振り返ってみることにしましょう。

9日～13日 修学旅行
三年生の最も大きな行事の一つです。きっと良い思い出となつたでしょう。

四月

6日 入学式・第一学期始業式

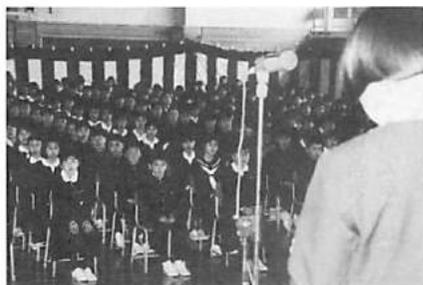
新入生も入学式を向かえ、在校生も一つ大人になりました。きれいに花を咲かせた桜の木もあり、私達の新たな第一歩を祝福してくれているようでした。

7日 対面式

この日、始めて全学年が顔あわせをしました。生徒会の仕組みや、部活動紹介などで新入生も楽しんでいました。

17日 各専門委員会スタート

いよいよ今年の生徒会がスタートです。どの委員会でも熱心な話し合いが行われていました。今後の活躍が楽しみです。



入学式



新入生歓迎会

六月

2日 第三十二回校内体育大会

天候にもめぐまれ、みんな一生懸命競技に参加していました。心をひとつにして応援していたクラスもあり、とてもすばらしい体育大会でした。

9日 校外清掃

代議員や整美委員が中心となって活動しました。今回は開会式もあり、天候も良く、生徒も積極的に参加していました。

11日 生徒総会

この日のために、生徒会役員は一生懸命準備してきました。当日は、失敗もありましたが、活発な話し合いができて総務も一



校外清掃



校内体育大会

安心でした。

20日 中体連陸上競技大会壮行式・応援

応援団の気合いの入った応援で、選ばれた選手も気合いが入っていました。

21日 中体連陸上競技大会

短い期間の練習でしたが、選手達は一生懸命がんばっていました。応援の方もすばらしい応援でした。

七月

6日 中体連総合大会壮行式・応援

選手一人一人がこれからの戦いに向けて、決意を新たにしました。

7日～10日 中体連総合大会

この日のために、どの部も一生懸命練習してきました。負けそうになってもあきらめず、最後まで一人一人が今まで練習してきた成果を十分に発揮し、がんばっていました。

24日 第一学期終業式

待ちに待った夏休みを目前にして、生徒の顔は皆、生き生きしていました。

八月

19日 第二学期始業式

長かった夏休みも終わり、ここからが大事です。みんな気持ちをひきしめています。

20日 文化祭実行委員会発足

各学級の代議員と各専門委員長、生徒会総務が中心となり、しんげんな話し合いが行われました。

九月

2日 中体連水泳大会

すばらしい記録を持った選手がこの大会に出場しました。入賞した選手もいました。

22日 校内弁論大会

自分の意見をしっかりと、はっきり発表し、聞いている人も、しんげんになっていました。

十月

1日・2日 第三十二回文化祭

かなり前から実行委員が準備を進め、その他各学級では合唱コンクールの練習や学年館の準備があり、とてもいそがしい時期でした。生徒会総務もおそくまで残って会議を開いたり、皆とても一生懸命でした。当日はもちろん大成功で、今年は、くす玉もみごとにわれ、努力が実った最高の文化祭でした。

8日 校外清掃

昨年は、雨で中止となってしまいましたが、今年は晴天で、五稜中周辺の地域のゴミをみんなで一生懸命ひろっていて、地域の方々にも大変よろこばれたことでしょう。

17日 生徒会役員選挙・立会演説会

新しく当選した皆さんおめでとうございます。これからは自分のやりたいことを積極的に発表し、活動してください。

31日 生徒会役員認証式

旧総務の皆さん、本当に御苦労様でした。新しく決まった新総務の皆さんは、今後の活動に向けてがんばってください。

十一月

10日 生徒会誌編集委員会発足

二、三年生の各学級の代議員と新旧総務によって内容が検討されました。



生徒総会



文化祭

30日 生徒会ブロック会議

他校では、どのようなことが行われているか。また、本校ではどのような活動をしている。このように、とても活発に話し合いが行われました。

十二月

8日 歳末助け合い運動

みなさんの心のこもった募金が集まりました。

御協力ありがとうございました。

24日 第二学期終業式

一年で最も長かった二学期も終わり、ついに冬休みです。

一月

19日 第三学期始業式

新しい年を迎え、これからは一年間の締めくくりとなり、とてもいそがしい時期です。気をぬかず、頑張りましょう。

三月

15日 卒業式

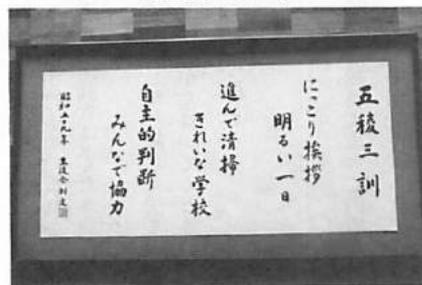
三年生はついに卒業です。卒業証書を受け取る時は、どんな気持ちだったのでしょうか。この三年間は、きっと一生忘れられない思い出となったでしょう。

24日 修了式

こうして長かった一年が終わりました。この一年間で得たものを、今後の自己の発展に役立てていって下さい。



役員選挙



五稜三訓

— 専門委員会 — 活動報告



我が母校に栄光あれ

代議員会

頑張った一年間

学習委員会

私達、代議員の一日の仕事はあいさつ運動から始まります。五稜三訓にもあるように、明るい校風を作るためにがんばっています。中には、あいさつをしない人もいる様ですが、ほとんどの人が快くあいさつをしてくれるので、本当に気持ちのよい朝を迎えることができました。この活動を通して、私もあいさつの素晴らしさと重要性を感じました。ですから、今後も続けてほしいと思います。

また、文化祭でも、実行委員として、よりよい文化祭を実現させるために努力しました。それに、校外清掃などの奉仕活動で、地域のみなさんに、日ごろのお礼と感謝をこめたそのような企画を立てるのも、我々代議員の仕事です。

これからの五稜の生徒は、自分から進んで仕事をやる積極性と、それに伴う責任感が必要だと思っています。そして、よりよい学級を、よりよい生徒会を、よりよい校風を築いてほしいと思います。

我が母校に栄光あれ

(立林 英明 記)

前期学習委員会が終わり、今ふりかえってみると、生徒総会では、質問せめにあうし、文化祭では、牛になるわけで、いろいろかえがたい経験をしました。その中で、初めはいやだと思っても、だんだんと、おもしろくなっていきました。そして、自分自身のたのしみになっていったような気がします。

その中でも、委員会での反省やクラスの意見をまとめたり、土曜日にかけて、朝自習を作るなど、一見簡単そうでも、結構難しいことでした。けれども今では、小さな小さな思いとなって生きています。

3年生になって、学習委員長になり、自身一生懸命やろうと思っていました。しかし何をやっていいかわかりませんでした。しかし、担当の先生に教わり、少しずつやってきたつもりです。

委員会をやってきたことは、三年間の中で無駄なことではありません、逆によい結果をもたらしたのだと思います。ぼくは、これによって大きな物を、学んだつもりです。

(島田 吉章 記)

五稜中学校の人柱

生活委員会

生活委員会

生活委員と言ったら、比較的なみなさんの身近に感じられる委員だと思えます。

今年の生活委員の仕事は、服装・頭髮・カバンなどの点検活動、週番活動、そして前期のおわりごろにあった文化祭の食堂のウェイトレスと色々な仕事をこなしてきました。点検活動と週番活動は少しでも学校の規律をよくしようとなみなさんのために精一ぱい頑張ってきました。そして文化祭の食堂のウェイトレスの仕事は、自分の食事をとるのも忘れて学校中を休みなく走り回っていました。

生活委員はクラスから男女各二名ずつと他の委員会と違って人数が多く、委員会の時何人かは、にぎやかでうるさく大村先生をよく困らせたり、僕の話をぜんぜん聞いてくれないので委員会が長いいたり、みんなの意見があわなかったりなどいろいろと苦労しました。前期の反省としてはみなさんの運動が多かったのが目立ちました。在校生のみなさんには、私達の果たせなかつた仕事を成しとげ、よりよい五稜中学校にしてほしいと思います。

(阿部 記)

保体委員会の仕事いろいろ

保体委員会

保体委員会の前期の仕事は、体力をつかう仕事ばかりだった。身体測定の際は、保健室から、あの重い体重計などを運んだり、体育大会では、スターティングブロックを、つけたりはずしたり、大会の前日には、ラインひきや、水まきなどをしてみんなの座るシートを張るのまで保体委員の仕事、まだまだあります。文化祭では、ステージ作りなど、まだある。石けん調べや教科連絡やチリ紙ハンカチ調べや病人の世話、いろいろな仕事があります。こないそがしい委員会なの？って思いますが、こんないそがしい委員会なの？って思う人がいるかもしれないけど、他の委員会とそんなに、かわらないと思います。でも、保体委員会は一回入ると、その仕事がおもしろくなり何回も何回も入りたくなります。僕がいい例です。二年間も続けてしまい、3年の前後期と委員長……。でも、保体委員会に入って後悔は、していません。むしろ楽しかったって方があつてるかもしれません。ぼくらが卒業したら。ために君らも保体委員会に入ってみたらどうでしょうか？

(相原 正靖 記)

委員長になって

給食委員会

ぼくはこの三年間に、何度か給食委員を経験しました。

一・二年生の時に給食委員になる時は、あまり仕事もない委員だからと思って給食委員会に入りました。

だけど、三年生になって給食委員会に入り委員長になったら、一・二年生の時の考えはかなり甘かつたことに気がつきました。

それは、委員長になると委員会の時、みんなの前に出て話し合いを進めたり他にもいろいろな仕事があり、とにかく委員長の仕事は大変だということがわかりました。

ほかに、委員長だけの仕事ではない、委員全員の仕事もあります。

例えば「台ふき」「ナフキン調べ」です。中にはこの仕事を忘れている人もいますが、汚れた給食台、机というのは気持ちのいいものではありません。

ところで、今この文を読んで給食委員になりたいと思った君、その君ですよ！決して楽な委員ではないけど辛いということもない。だから君に一言「ガンバレ!!」(三沢 記)

整美委員としての役割

整美委員会

僕は、整美委員を三期間やり、三期目に委員長に推薦され頑張ってきました。

僕は基本的に地味で、面倒な仕事ばかりをしてきました。花壇作りやその世話、玄関掃除、整美だよりの発行などなど、一見簡単そうに見えますが、やってみるとなかなか面倒な仕事ばかりでした。中でも大変だったのは、花壇の世話と玄関掃除でした。普段花壇は水やり程度ですが、一ヶ月に一度くらいは雑草も取らなくてはなりません。玄関掃除は、四週間から五週間に一週、毎朝生徒が登校する前に、一生懸命掃除して大変でした。

このように整美委員の仕事は、なにかと苦勞する仕事ばかりではありましたが、楽しくやれたし、地味な仕事も学校全体に役立つことばかりだったので、やりがいがありました。最後に来年度、何委員会に入ろうかと迷っているかもしれない君、次は是非整美委員会に入って、明るく綺麗な五稜中学校をつくって下さい。

(吉田 潔記)

文化委員としての学んだこと

文化委員

僕は三年の前期、初めてこの委員に入り、委員長をやらされた。別に目立つような仕事もなさそうだし仕事もあんまりないだろうと思いにせず続けた。思ったとおり、掲示物のはりかえや新聞づくり、目立たない仕事ばかりでした。文化祭の仕事は、ということ、これも、ポスターコンクール、壁新聞、合唱コンクールの推進を裏で人知れず頑張る仕事ばかり。けど、目立たない仕事だから文化委員は暗い、とか思わないでいてほしい。今回は僕が委員長だったために暗くなってしまったのかもしれないが、文化委員でも、どの委員でも明るくしようと努力すればみんながすんなり入れる委員会にできる。今は暗いから入りづらいかもしれない。けど、暗い委員なら、明るい人が自分から入り、明るい委員会にしよう、という気持ちで、明るいなら、さらにその明るさを続けていこう、という気持ちをもった人が、来年からこの委員に入り、今のこの文化委員会をもっと明るく活発な委員にしてこれからも頑張ってください。

(三浦 記)

ゴーゴーレッツゴー・図書委員

図書委員会

図書委員会は、他の委員会の中で最も目立たない存在です。しかし、私達図書委員は、意外に大きな役割をはたしているのです。

例えば、本の貸し出しです。図書室を利用する人達のために毎日図書室や本の管理をしたり、一生懸命がんばっています。そのため、最近図書室の利用者が増えてきています。

そのうえ、図書室そうじや、二か月に一回図書室だよりを発行するなど、その他にもいろいろな仕事をしています。しかしこれらの仕事をバーフェクトにこなすには、委員全員の協力が必要となります。

我が図書委員会には、とてもまじめで積極的な人達ばかりが集まっています。今までの活動の他にも、いろいろな事を行ってきました。新しい本も入り、さあこれからさ、という時なので、私達が卒業しても、もっと行きやすい、よりよい図書室、また、図書委員を目指してがんばってほしいです。そして、自分の仕事に責任をもち、図書室の発展、向上のために全力を尽くして下さい。

(中川 記)

活動を振り返って

放送局

私たち放送局は、局員全部を合わせても、たったの七人という少人数で活動してきました。主な活動内容は、一部の行事の司会や、朝昼の放送を定期的に流すことでした。

最も大変だったことは、やはり、朝と昼の放送でした。なかなかうまくいかず、とても苦勞しました。

その原因の大半は、放送機器の不調と、操作の理解が不十分であった点だと思えます。それぞれの教室などによって、ボリュームが異なるので、「小さくて聞こえない。」と「大きすぎてうるさい。」を同時に言われると、とても困りました。よりよい放送を行うためにも、まだ理解しきれない、いくつかの機械操作についても、説明を急ぐことが、これからの重要な課題の一つではないかと思えます。

最後に、もしかすると自分には、アナウンサーの才能があるのかもしれないと、密かに思っているあなた！今からでも遅くはありません。ぜひ放送局にはいつてがんばってみてはいかがでしょう？

(佐藤 千草 記)

The Strongest Cheer Party

応援団

僕は、突然団員に推薦されて団長になってしまいました。初めのうちは、僕にこんな大役ができるのだろうかと不安でしたが、三年の団員に協力してもらってなんとか頑張ってやりとげることができました。

中でも大変だったのが、一・二年生の指導と野球部の応援でした。一年生はまだ声変わりしていないのもいて、なかなか声が出ないうえ、恥ずかしくて型もしっかりやらなかったので大変でした。

野球部は今年も強く、準決勝まで進出したので僕らも応援のしがいがありました。最終戦は一番の白熱戦でした。何としても本通中に勝って決勝に進んでほしかったので、普段の倍以上に気合を入れて応援したので、僕は喉が腫れて声が出なくなりました。一般の生徒にもお願いして、一緒に応援してもらって本当に助かったのですが、惜しくも敗退してしまい、僕達応援団の九年の夏は、終わりを告げました。

後輩へ一言。「五稜Fight, Oh!」

(中村 大介 記)





卒業生へ贈る言葉

～三年生関係の先生・職員室から～



A組担任 中谷 満 先生

「自分を見失うことなく」

三年生の皆さん、卒業おめでとう。人生の一つの節目として、中学校卒業は大変意味のあることです。世間の皆さんに対する目も変わり、許容範囲も広がることでしょう。しかし、自由と表裏一体にある責任ということも、重くのしかかってきます。自分の行為に対して必ず責任が伴い、今まで以上に厳しく責任を問われることでしょう。体力・気力が共に充実した時を迎えようとしている皆さん、この時期にたくさんの知識と経験を吸収し、これからの人生、自分がどのように生きるかを、しっかり学び取って下さい。そして、他の人に「暖かさ」を感じさせる人間になって下さい。



B組担任 古館 勉 先生

自分を磨け

卒業おめでとう。多くの想い出を胸に三年間の中学校生活が終わりに、同時に九年間の義務教育に終止符を打った。その中でも特に進路問題においては初めて厳しい現実に触れ、それぞれが悩んだことでしょう。また、君達が大人になるにつれ、さらに厳しい世界を見ることになるだろう。そして、君達に与えられる責任も大きくなっていくのです。日々生活していく中で自分の目標をしっかりと見つめ、適確な判断力と行動力を持って突き進んで欲しいものです。「言われなければわからない」自分をも卒業したはずなのですから……。厳しさの中で自分自身をさらに磨き上げて欲しい。



フォロースルー

C組担任 信田博之先生

バスケットボールのシユートの大切な要素に、フォロースルーという技術があります。ボールが手から離れた後の手首の返しのことです。これが出来ると、よりシユートの確立が高まるのです。

我、素晴らしき三年生も、義務教育の手を離れ、自分の責任により、日々生活を送っていくことでしょう。今、放たれた個々のボールには、五稜中での三年間というフォロースルーが、かかっています。この五稜という根を大切に、そして新たな回転をかけてくれる根を捜し、見つけて下さい。最後に、人生おおいに悩みなさい。悩みがあるから人生です。悩むから、心が成長するのです。



JFK

D組担任 高橋一也先生

最近JFKKという映画を観た。若くしてアメリカの大統領になったが63年にテキサスのダラスで暗殺されたジョン・F・ケネディのその事件の真相に迫ろうとする見ごたえのある映画だった。

大統領暗殺という大犯罪、その背後にある巨大な権力組織、それを解明しようとする良心、謗害を乗り越えて映画化した勇氣など、改めてアメリカの民主主義とは何かを自分に問い直してみた。

かつて私はアメリカのケネディの墓でRIPと祈ったことがありますが。今年には死後30年に当たりますので世界中で彼が話題になると思います。君たちもケネディやアメリカを研究してみてはいかがか。



植物が持つ自然の美しさ

E組担任 佐藤泰治先生

野山の樹木や野草の美しさに、心が引かれるときがある。

自然界の生物は、激しい生存競争をしている。植物も光と水を求め、生きる営みを繰り返している。それぞれの植物の姿は、特徴のある個性を持っている。合理的に光を受ける他の枝の配置や葉の形が長い進化の過程で形づくられ、厳しい生命活動の積み重ねの結果が自然の美しい作品として素晴らしく見えるのである。

諸君は、未来社会を一生懸命に生きる心構えが必要です。その心構えて努力することが、人の美しさを作ることにつながります。美しく、たくましく生きて下さい。期待しています。



目標実現にむけて

国語担当 井筒泰三先生

卒業生のみなさんはいよいよ旅立ちですね。いままでは義務教育ということで、同じ道のりを歩んできたわけですが、これからは自分で自分の道を選んで歩み続けることになります。

中学校生活で身につけた知識・技能を、これから進む道で大いに活用してください。そして、さらに人間的に今よりも大きく成長することを祈っています。

どんな目標を持つとも、行動を伴わないと実現できません。そのためには、健康であることが条件の重要な一つとなります。健康に気をつけ、目標実現のため歩み続けてください。



“雑草のごとく”

美術担当 吉田安宏先生

長いようで短かった中学校での三年間、いろいろな思い出がよみがえってくることでしよう。あとで振り返ってみると、思い出はつねに美しいものです。この思い出を大切にしてください。これから的人生を一步一步確実に歩いて行って欲しいと思っています。道端に生えている雑草は、踏まれても踏まれてもまた生えてきます。この雑草のように力強く生きること。艱難辛苦をのり越えて雄々しく生きて行くこと。これからの長い人生、いろいろな苦難も多いと思いますがそれをのり越えるため、努力することにその人の価値が問われることになるのです。今後、より良き人生をおくるため頑張ってください。



旅立つ

技術担当 杉山春吉先生

義務教育の九年の年月がすぎようとしている今、諸君は人生の岐路に立つ九年間の学習の成果をたずさえて旅立つ時である。人生はこれからも数限りなく乗り越えなければならぬ、旅立つ後困難が待ち受けています。諸君の人生は始まったばかり、自分の人生に対して自分の意志が働いた時から本当の勝負です。

諸君の課題は卒業後も困難を乗り越え決断していくことによりよりおおきな人間に成長できると思います。最後に諸君の心とからだの健やかな成長を期待するものです。



現在に自分のすべてを

社会担当 村井貞夫先生

三年生の諸君、卒業おめでとう。諸君の卒業に際して何か祝詞をと思い巡らしてみたものの、所詮浅学非才の小生には、これと言って、適当な言葉も思い浮かびません。そこで、ある書の一文を載せて、卒業への祝詞としたい。「幸福といえは、皆様方は、幸福になるほんとうのひけつをごぞんじでしょうか。わたしは現在に生きることだと思っております。いつまでも過ぎ去ったことにくよくよしたり、未来のことに思いやんだりしないで、いまの立場からできるだけよろこびをさがすことではないでしょうか。」
ウェブスター作「あしながおじさん」の一節より



卒業おめでとう

社会担当 内木竜先生

卒業おめでとう。いよいよ自分で選択し自分の道を選んでいくことになります。これから、生きていく中できつとつらいことがあるでしょうが、そのような時この「五稜」での生活の思い出や財産が心の支えの一つになってくれるにちがいありません。

授業では、E組一クラスだけのつきあいでした。三年生とは、一年間のつきあいでもあり、まだまだ知り得なかった部分がたくさんありました。この三年間に発揮した力、まだ見えない隠された力をこれから発揮し、自分の道（人生）を切りひらいてください。



心は常に新鮮であれ

理科担当 大村 俊 幸 先生

卒業おめでとう。新なる生活への船出ですね。人各々、進む道は違っても、自分の進む道を自分で切り開いて行く点では同じです。でも、当然ながら、思った通りにならないのが現実です。

現在、入学した時のあの新鮮な気持ちをも、二・三年生に進級した時のあの張り切った気持ちを持ち続けている人は何人いるだろうか。ひとは、物事に慣れてくるにたがって、夢や希望を現実置き換えてしまいます。でも、精彩のない漠然とした日々を過ごすなら、常に心のどこかに新鮮な気持ちを持ち続け、夢と希望を失わず、追い続けてほしいのです。現在に埋没せず前進して下さい。



置きみやげ

家庭担当 木村 以久子 先生

「おはようございます、」 「こんにちわ、」 正にその響きは、いつもです。三年間、こんなに元気に挨拶してくれた学年があったらどうか？ 心のこもった元気の挨拶は、自分達の生き方に自身をもった証でした。意欲的に学ぶ姿―一人ひとりが生き生きと、いつも明るく、前向きで立派でした。力の結集―運動はもちろん、文化祭の三年生の合唱は、感動でした。学級が一丸となった響きは、聴く人も共鳴しました。誉めたいことが沢山ある卒業生の皆さんですが、特に挨拶、学ぶ心、何事にも懸命に取り組む姿は、後輩達に残せるすばらしい置きみやげだと私は拍手を贈りたい。



“エネルギーが” 三年生

音楽担当 田村 順子 先生

卒業おめでとう！
常に三年生の声が学校中にこだまし、職員室では、楽しい会話が聞かれ、笑いが絶えなかった。活気があり、エネルギーが、授業はともやりやすかった。一週、たった一時間の音楽授業も熱心にこなし、充実したものとなっていた。

“大地讃頌”や各クラスの自由曲も必死に練習した合唱コンクール。今卒業のとき、中学時代の全てを思い出し、新しい出発の土台にしてほしい。また、熱気あふれる一人ひとりの姿を見ることができると思う。
“お元気で！”



“自分を大事に！”

養護教諭 斉藤 直美 先生

三年前。真新しい制服に包まれ、夢と希望を持って入学してきたみなさん。この三年間は、充実した楽しい学校生活を送れましたか？ もし、何か後悔している人は、長い人生のうちこのたった三年間で。これからの努力しだいで、充分にとりかえすことができます。どうぞ、他人に流されないで、そして他人のように上手くやろうと思わないで、自分というものに自信を持ち、“健康な心”を持って、明るく、楽しく生きて行ってください。ご卒業本当にうれしく思います。おめでとう



音楽は人にとって大切なもの。
今は私の心のゆとり

音楽担当 吉田美奈子 先生

三年生のみなさん、卒業おめでとう。ごぶさたしていますが、さぞ、頼もしい卒業生となっていることでしょう。私からみなさんへのメッセージは、毎日の生活の中に、音楽の存在を実感して欲しい、ということですね。音楽は時には人の心のゆとりになり、時には励ましてくれる力にもなります。私は今、一日中家にいることが多いのですが、忙しい中、必ず音楽を聞く時間をもっています。ドリカム・ユーミン・竹内まりや・etc.。時には大きな声でいっしょに歌っています。お腹の中にいた時から我、吹奏楽部の騒がしい音を聞いていた息子は、そんな私のそばですやすやすと眠っています。

卒業していく君達へ

理科担当 吉田 孜 先生

卒業おめでとう。人生八〇年時代のわずか三年間ですが、大変大切な、そして、変化にとんだ三年間でした。日本の歴史上で、初めての事柄がいろいろありました。消費税の導入、PKO法案、学校五日制、いずれも君達が中学生の時に導入された出来事です。

今後とも変化にとんだ日々が続くと思いますが、社会の変化をしっかりと見極めて、対応していかねければなりません。

しかし、どんなに社会が変化しようとも、「人の心」は、変わりません。真の「優しさ」を持ち続け、これからの長い人生を送っていただきたいと思えます。

青春真っ盛り

素敵な大人になることを期待して……。

事務担当 稲葉陽子

事務担当 泉 郁子

ご卒業おめでとう

明日のことより、今日一日を大切に!!

用務担当 松本恭右

卒業おめでとう。新しい気持で未来に向かって努力前進して、たよられる様な人間になって下さい。

用務担当 近江谷 千春

卒業おめでとうございます。それぞれ自分が果たさなければならぬ役割を責任を持って歩んで下さい。

用務担当 藤崎 孝造

卒業おめでとう。光陰は矢の如くです。一年一年を楽しく明朗にすごそう。人生はこれからだ。友情を大切にして下さい。

給食担当 熊石 トシ

給食の事を思い出してね、一日一日を大切に頑張ってください。

祝 卒業

自分人生大切 辰巳美穂子
 心の大切 古川文和
 自然体 佐藤春治
 反骨精神 后藤博之
 Do Your best!
 C. Isokawa

我以外皆我師
 井橋村松
 他人の苦も辛い
 泉 朋子

真教寺取調 荻野
 稲妻陽子
 大分県田原市
 大分県田原市

自分には勝つことは勝利のうらや
 最大のものである
 坂井

同業も皆縁者なり 七舞
 人には名もく
 自分に教へく
 有藤直夫

God bless you!
 R. Takahashi

汗を流して我道を通す
 青春は外方なき井筒
 生涯客心 遊心 遊心
 学業心 遊心 遊心
 木村 正太郎

卒業する先輩方へ

一年C組 川 股 礼 奈

三年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。私達、一年生とは一年間という短いあいだでしたが、いろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。

入学した当時は不安でいっぱいだった私たちでしたが、三年生の先輩方がやさしく教えてくださったおかげで、不安を期待に変えることができました。

その他、生徒会活動や委員会活動、文化祭や体育大会などの学校行事で私たち一年生や二年生の先輩方をよい方向へ向かわせてくれたのも、三年生の先輩でした。

生徒会活動では、三年生の先輩方が一生懸命に活動していました。委員会活動や、部活動、その他の活動を一生懸命にやっていたのは三年生の先輩だったと思います。

特に部活動では誰よりも一生懸命に、そして真剣に活動していたと思います。

三年生の先輩方が活躍していたものをあげると、文化祭、校内体育大会、校内球技大会……と、あげたらきりがありません。

私達、一年生はあと二年、二年生の先輩方はあと一年しかありませんが、今年、五稜中を卒業する三年生の先輩方の意志をつぎたいと思います。

自分を信じて…

二年C組 今 津 那 智

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

私達は三年生の皆さんに委員会やクラブ活動などいろいろな面で大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

間もなく皆さんは九年間の義務教育の課程を終え、それぞれの道に向かって飛び立とう・・・としています。三年間、長いようで、振り返ってみると短い中学校生活を今、実感していると思います。

しかし、その間の思いでは、数限りなく、楽しいこと苦しいこと悔しいこと嬉しいことなどが走馬灯のように頭の中を駆け巡っているでしょう。けれども、その思い出の一つ一つが、今、心身ともに成長した記録なのではないかと思えます。

人生はこれからです。自分の希望実現に向かって努力を継続させなければなりません。皆さんの前途は洋々たるものです。自分の「夢」を現実のものとするためにも、自分が持っている無限の可能性を信じて、一生懸命がんばってください。そして、これからの未来は何が起るのかというのは誰も知りません。これからの未来というのは、自分自身の手でつくっていくのではないかと思えます。「運命は自らまねき、境遇は自ら造る。」一日一日を大切に、悔いのない日々を過ごしてください。

この五稜中学校で過ごしたいろいろな思い出を忘れず、新しい世界を歩んでいってください。

時間を大切に

三年A組 大島 典子

とても短く感じた三年間、慣れ親しんだこの校舎に別れを告げる時が来ました。

私は今、時間は決して後戻りできないものだと思つづく実感しています。いろいろな面において後悔の連続でした。なぜか行動と心がうまくかみ合わなかった様に思います。

そこで在校生には、さまざまなことに挑戦し、その苦楽を味わい有意義な学校生活を送ってほしいです。

楽をすることは、誰にでも容易いことなので、私達はつい、そちらの道ばかりを選びがちです。

しかし、そこで自分を見つめ直してみてください。本当にこれいいのかと自分に問いかけてみてください。

漠然と過ごすも一日、自分の納得がいくように努力するも一日、ただ時計の進むのを見送るばかりでなく、自分の信念をしっかりと持ち、前向きに過ごしてほしいです。目標を持つことはとても大事なことです。それによってやる気もおこり、必ず良い結果が生まれるでしょう。そしてそれをやりとげた後の充実感というのは計り知れないものがあるでしょう。

これは難しいことだと思いますが、精神力と行動力で大切な時をきざんで下さい。

後輩たちへ

三年D組 鈴木 文仁

月日が過ぎていくのは本当に早いもので、私がこの五稜中に入學してからもう三年がたとうとしています。一、二年の皆さんは月日のたつのを私達三年生のように早く感じる事はまずないでしょう。

さて、話は変わりますが皆さんは学年が一つ上になるといふ事その身に感じつつ一年生は二年生、二年生は三年生になっていきますし、新一年生も入學してくる事でしょう。二年生の方々は例年通りになるとそのままの学級で三年生になるのであまり変わったという感じがしないでしょう。

知らない間に時間が過ぎていく事はよくある事で、今この文章を書いている私でさえあと2、3ヶ月で三年生が終わってしまうなんてとても信じられません。

私も三年生になってからは時の流れが非常に早くなっているような気がします。

あと三ヶ月もすれば私達三年生はこの五稜中からいなくななり、数週間の間は一、二年だけになるでしょうが、その三年生のぬけた穴を補っていくのがあなたたちです。よく学校を去る人が、私達の事を忘れないで下さい、と言う事があります私ほとんどん忘れてほしいと思います。私達のよい所を引きついで、悪い所は忘れてしまつた方がよいと思います。

北海道函館市立五稜中学校

第53回全国大会出場記念



三年間の野球生活

野 球 部

顧問 杉山・古館 先生

みんな威勢がよく、気が強い部と言ったら我が野球部のことでしょう。その威勢の良さと気の強さで三年間頑張ってきました。

この三年間は決して楽なものではありませんでした。僕たち三年生が野球部に入部してきた時は、既に三年生の先輩たちが、新人戦で優勝していました。さすが優勝しただけあって練習もきつく、今でも初めて入った時、室内で走りこみをさせられて足が棒のようになってしまったことを思い出します。

そして去年の中体連で先輩たちが優勝して「来年も」という期待が一年下の僕たちにかかりました。二年連続制覇を目指して去年の夏休みから中体連まで頑張ってきました。しかし、あともう一步というところで負けてしまい、みんな涙を流し、とても悔しい思いをしました。一・二年生には来年悔いを残さないよう頑張ってもらいたいと思います。そして中体連では是非とも優勝して欲しいと思います。

最後に古館先生、杉山先生、お世話になった先生方、三年間本当にありがとうございました。（二瓶・張間 記）



勝つことの難しさ

卓球部

顧問 高橋・井筒 先生

卓球部は、三年前の先輩達が成し遂げることが出来なかった中体連での全道大会優勝の夢を目標にして、毎日、高橋先生の下で練習を行ってきました。ところが、精神面が弱いせいで大会が近くなつてから、長く練習を休んだり、主力の選手がケガをしてしまつたりしたので函館大会でも苦戦をすることになってしまつたのです。

しかし、なんとか団体戦では決勝戦で深堀中を倒し、函館で優勝個人戦でも三人が全道大会行きという成績を収めました。さらに続く渡島大会でも八雲中を倒そうと必死で戦いました。

それは、ほぼ互角の戦いでしたが僕達の方が頑張りきれず1対3で敗れ、一年生の時からの全道大会優勝の目標は達成できませんでした。でも、その目標のための練習は決して無駄ではなかつたと思います。試合に勝つことの難しさを学び、また試合に苦勞して勝つた時の満足感も知りました。

そして、三年間指導して下さった高橋先生、井筒先生や先輩方本当にありがとうございました。

(服部 智行記)

夢を追いかけて

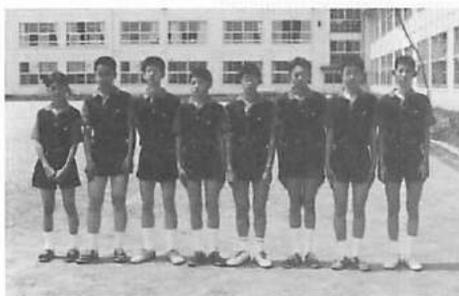
サッカー部

顧問 萩野・大村 先生

僕達は、「中体連優勝」このことを目標に頑張つて練習をしてきました。しかし、亀田中に大差をつけられ一回戦敗退。これは、僕が入学する前から続いており、今年こそは、今年こそはと頑張ってきましたが、年々、うちの学校を含めて、レベルが上がってきたので一回戦勝つのも難しくなってきました。

後輩たちには、まずここ数年続いている「中体連一回戦敗退」この記録をうち消すように頑張つて欲しい。そして次に、一回戦突破とはいわず二回戦、三回戦そして「優勝」するようになって欲しい。そして、何より悔いの残らない試合をして欲しい。そして、サッカーの楽しさを忘れずに頑張つて欲しい。最後に、お世話してくださった大村・萩野両先生、そして、退職された木村先生と、その他の先生方、大変お世話になりました。

(塩田 憲介記)



努力と根性のバスケット部

男子バスケットボール部

顧問 信田・斉藤(直)先生

我々男子バスケット部は、平成三年七月、二年生六人、一年生六人の計十二人の新メンバーで、十月に行なわれる新人戦を目標に練習を開始した。夏休みの厳しい練習を乗り越え、疲労や怪我が目立つ中、新人戦ではベスト8入りを果たした。その後も怪我に悩まされながらも、ムードメーカー三沢、デンジャラス柳町、ロングリーチ(2m)滝田、鳥ごぼう永山、ブラック昭吾、そして私が主将のラッシュャー木村を中心に一年生の頑張りもあり、冬季リーグも去年と同じ二位

を確保した。そして新一年生を迎え、中体連へ向け猛練習を開始したかのように見えたが、中心となるべき三年生の中に、さぼるという心が目立つようになり、一回戦戸倉中に対し三の5ゴール差で、敗れてしまった。この苦しさを忘れずに武内を中心に協力し技術はともかく精神面でも強くなることを期待します。

最後になりましたが、信田先生、斉藤先生、大変お世話になりました。今後もバスケット部の優勝に向かって、頑張ってください。

(木村 晋哉 記)

喜びも悲しみも

女子バスケットボール部

顧問 信田・斉藤(直)先生

私達は、バスケットを通して、バスケット部員でなければわからない喜びや悲しみ、つらさや怒りと、様々な感情をみな一緒に味わってきました。

部員一人一人、個人差があるわけだし、それぞれ考え方もちがうので、ケンカも多かったし、意見の食い違いもあり、チームワークは乱れまくなり、一時はチーム全体の実力がかなり伸び悩んだりもしました。でも、私達一人一人の目標だけは、ずっと変わらず、「中体連優勝」でした。その目標を、みんなの力で叶えるためには、誰一人として気を緩めるわけにはいきません。中体連当日、これに最後にならないようにと私達は全力をつくし、とうとう準決勝までたどり着きました。でもそこで、私達のバスケット生活はストップしました。もう何も話せず、ただ泣くだけで、私達はいろんな思いをした分、悲しくて、心から涙を流しました。今思えば、私達には本当にいろいろなさがあり、誰にでも自慢できる仲間も得ました。

最後に信田先生、心から感謝しています。(木下 真弓 記)



テニス部で学んだこと

テニス部（男子）

顧問 村井・内木先生

中学の部活というときと激しいレギュラー争いがあるという感じがしますが、男子テニス部は僕が入部した時から人数が少なかったのもそういうことはありませんでした。ですから今年の中体連も僕と一年生の後輩一組だけしかできませんでした。

結果は惜しくも、と言いたいところですが、ボロ負けでした。試合に負けるとき今までの努力が頭の中を駆け巡って、じわじわと悔しさがこみあげてきました。この三年間努力してきたと言ってもそ

の中味は充実していたとは言えないと思います。でも僕は、テニスをやる本当の楽しさを経験する事ができたいと思います。

三年間の部活を終えて後輩達に伝えたい事は、普段練習する上で、ただ練習するだけじゃなくてどんなに小さくてもいいから目標を持ってそれを積み重ねることによって大きな目的を持つということだと思います。このようなことを心の隅に置いて練習して欲しいです。

最後に後輩へ一言、「お願いだから男子テニス部をつぶさないでくれ。」
（高野 貴之 記）

後輩へ・・・

テニス部（女子）

顧問 内木・村井先生

私達は、今年の中体連前に、「団体戦三位入賞」と「個人戦で全組が一回戦突破」という目標を立てました。みんなそれを実現させるため、朝七時からの練習、放課後の練習と、一生懸命頑張りました。しかし、結果は、団体戦では、惜しくも予選リーグで敗退。個人戦でも、ほとんどの組が一回戦で敗退してしまいました。

その大きな原因として上げられるものは、「日頃の地道な練習が不足していた」ということだと思います。どちらかというと、私達は楽な方の練習ばかり選んでいました。そのため、練習そのものが中身の無いものとなってしまい、自分の実力に結びつかず、今回のような、結果を生んでしまったのです。

後輩達は、この経験をバネにして、私達が叶えられなかった、「団体戦三位入賞」を目指し、頑張ってください。

最後に、三年間の中でお世話になった先生方、私のパートナーだった米内山さん、ありがとうございます。

（伊藤 絵美子 記）



卒業という壁を乗り越えようとして今・・・

バレーボール部

顧問 辰宮・斉藤（克）先生

中体連を最後に私達はバレー生活にピリオドを打ったわけですが、それまでには楽しいことばかりではなく何度もくじけそうになったこともあったけどその一つ一つの節目を仲間と乗り越えて、一歩、また一歩と大人に成長していったような気がします。みんなで中体連一回戦突破を目指して毎日夢中でボールを追いました。結果は惜しくも敗戦。でも試合の勝敗ではなく、どれだけ仲間とねばり強くボールを追ったかというチームワークが一番大切な事だと思う。私達のチームワークとこのチームにも絶対負けません。バレーボールという一つのスポーツを通して喜びや悲しみを一緒に感じられる仲間ができました。と同時にたくさんの思い出が心に刻み込まれました。私は叶うために夢はあると思う。それでももう一歩という所で叶えられなかったみんなの夢を後輩に託します。実現させるように精一杯がんばって、二度と戻る事のない今日という日を思いきり過ごして、私達以上にたくさんの思い出を作ってください。辰宮先生斉藤先生熱心なご指導本当にありがとうございました。



（紫前裕子記）

（紫前裕子記）

「ウチの部員は16名」

演劇部

顧問 中谷・浅井 先生

我が演劇部は、ものすごい個性ぞろいで、まとまりの「ま」の字もありません。

部長の話は聞かないし、まったくワガママで、自分勝手なヤツらばかりです。

……と、まあ、悪いところばかり冒頭に並べてしまいました。本当は、みんな人の気持ちをわかってあげられるやさしい部員なのです。私が困っている時も、みんな自分のことのように考えてくれて、まさに「一人はみんなのために。みんなは一人のために。」でした。

そんな私たちでつくる劇は、まだまだ未熟ですが、とても楽しいものです。だんだんその役にはまってくると、日常会話のイントネーションまでなりきってしまい、みんなで大笑いしたこともありました。

他人を演じることの楽しさを忘れずに。がんばれ！

（川淵 愛 記）



「頑張った一年間」

吹奏楽部

顧問 吉田(美)・佐藤先生



今年も例年通り8月に吹奏楽のコンクールが行われました。私達はこの日のために金賞目指して一生懸命練習してきました。夏休み中も暑いのを忘れる程必死でした。コンクールが近づいてくると段々と曲も仕上がって上達していき、心の中で金賞を期待していました。結果は銀賞でした。残念だったけど冬の間の練習内容や時間を無駄にしていたことなど反省すべきところも後悔するところもたくさんありました。でもコンクールでの私達の演奏は、今までの中で一番素晴らしいと思ったと思います。

三年間で学んだことはたくさんありました。私が至らないせいでみんなに迷惑をかけたこともあったけど支えてくれた大切な仲間や後輩達に感謝します。

来年こそは金賞を取れるように、二年生は頑張ってください。

吉田美奈子先生、佐藤泰治先生、佐藤匠先生、井関楽器の伊勢俊彦さん、お世話になりました。本当にありがとうございました。

(橋爪 有希記)

心をひとつに

合唱部

顧問 田村・辰巳先生

合唱部は相変わらずの少人数でスタートしました。

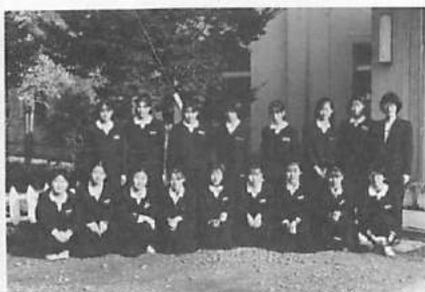
いろいろなことがあり、心がバラバラになったこともありましたが、活動を続けていくうちに再び心はひとつになりました。

10月、文化祭での発表を無事に終え、たくさんの人達から良い批評をもらうことができました。そして11月の合同音楽会では、本通中学校と合同で出場しました。しかし、一緒に練習する時間が少なく心がひとつにならず、成功とは言えませんでした。

様々な活動を通してわかったことはやはり「心をひとつにする」ことだと思います。それができればまず合唱は成り立つと思います。後輩達には私達のできなかったことを経験してもらいたいです。例えば卒業生を送る会や、対面式、その他いろいろな面で活躍の場をもち、合唱部の存在を大きなものにして欲しいと思います。

これからも大変なことがたくさんあると思いますが、どうか頑張ってください。そして、ご指導して下さいました田村先生、三年間本当にありがとうございました。

(久保 裕美記)



一年間を振り返って

コンピューター部

顧問 中谷・木村 先生

今年、五稜中ではコンピューターが導入されました。そしてできた部活が、このコンピューター部です。まだ一年生で、週一回三日に分けて活動しています。陰気な部活のように見えるかもしれないけど、先生をはじめ部員たちも他の部に負けないくらいです。先輩も後輩も関係なしにみんな仲が良く、遊んだり話に夢中になって先生に怒られることもあるけど、やる時は真剣に取り組む部活です。この一年間でやったことはいろいろあるけど、一番印象深かった

のは「国旗づくり」です。コンピューターの画面に国旗をつくるので、色を変える所や形を変える所などがあり、頭を使うので多くの時間がかかり、一つの国旗をつくるのも一苦労でした。失敗を繰り返しながらだめで、一つの作品をつくることは私達にとっても嬉しいことです。

この部は他の部活よりも練習量が少ないけど、これからの時代には欠かせないものになると思うので、今のチャンスを活かしていきたいと思っています。覚え、覚えていきたいと思います。

(船山 陽子記)

文化祭があるからこそ存在している：写真部

写真部

顧問 松山・吉田(安) 先生

例年のことながらも我々写真部は、はっきり言って活動はあまりなく、今年も文化祭のみだけが、大きな活動となっていました。

今年度の文化祭に展示した写真の内容は、中体連や、風景写真が多かったのですが、思うようにはいきませんでした。また、部員も部長・副部長を含めても、わずか5名しかなく、いざ活動するときとなると、2人ぐらしか集まらないので大変でした。現像室も狭く、2人3人より収容できないので、やはり、5人7人くらい収容できるような部室にしてもらいたいものです。文化祭での部の仕事も中体連から始まり、夏休み中も、何日も活動がありました。展示するネタが少ないので、自分の家でどこかへ行った時、写した写真も使いました。文化祭があるからこそ、写真部は存在しているといっても、過言ではないくらいです。

今年の新入部員は2人だけでした。これからの後輩方も、今までのように、頑張ってもらいたいものです。

(山崎 浩記)



水泳と、私

水泳

中体連全道大会に出場するのは、今年で二回目でした。五稜中からは私一人でした。札幌の平岸プールで大会が開かれ、他の学校の人たちと一緒に過ごせて、とても楽しかったです。全道で入賞することもできました。

その後の函館市内の大会は、私と一年生の黒田さんが出場して、女子総合でいいところ



までいきましたが、やはり人数が少ないので三位入賞にはならず残念でした。この三年間で、何度も大会に出場できてよかったです。

(小笠原 さおり記)

The Last Battle

剣道

僕は部活動ではありませんが、人数が少ないので何とか個人戦にだけ出場させてもらいました。僕にとっては最後の中体連なので、少しでも良い成績を残せるように頑張りましたが、無念にも三回戦敗退に終わってしまいました。



石黒さんの方も、三回戦で運悪く今年の優勝者と当たってしまいました。残念ながら、残念ながら負けました。僕の希望としては、いつの日かこの五稜中にも剣道部ができればと思っています。来年の中体連も是非、石黒さんに頑張ってもらっています。

(吉田 潔記)

「人生の一つの思い出」

柔道

私は入学する前から中学で入部したいと考えていた部活があり、それは柔道部とバスケット部でした。

小一からずっとやってきたので柔道部に入ろうと決心した時に「魔部」と聞いて残念でした。

しかし、母の勧めと先生方のご協力をうけ中体連柔道に出場することができました。

柔道大会では一回戦目に三年生とあたりなるとか一本勝ちでした。この調子で二回戦も思いましたが現実には厳しく判定で負けしまいました。結果は三位で終わってしまいましたが人生の一つの山としていい思い出になりました。

(久留利 浩代記)



平成4年度卒業生

思い出をこのページに残して



雑草

雑草が

あたり構はず

延び放題に延びてゐる。

この景色は胸のすく思ひだ、

人に踏まれたりしてゐたのが

いつの間にか

人の膝を没するほどに伸びてゐる。

ところによつては

人の姿さへ見失ふほど

深いところがある。

この景色は胸のすく思ひだ、

伸び蔓れるときは

どしどし延び拡がるがいゝ。

そして見栄えはしなくとも

豊かな花をどつさり咲かせることだ。

(北川 冬彦 による)



	富樫	大島	吉田	岡村	石田	相場	滝田	小川	木村	
吉田先生	安原	志村	久保田	柴山	谷口	立林	布施	里村	福田	井筒先生
	内田	後藤	米谷	板垣	三沢	藤島	藤野	波多野	吉田(雄)	
森	山村	遠藤	中谷先生	校長先生	教頭先生	島田	奥谷	花田	吉田(忠)	

3-A

3-Aは団結力だ

中谷級

我々3年A組は、明るく活発で一人ひとりの個性が調和した仲々おもしろいクラスと言える。

そのクラスの担任は、数学者の中谷満先生へピースモーカーでコーヒーが好きな真面目な先生で、だいぶ我々がめいわくをかけ、苦勞させてしまった先生でもある。

苦勞させたのは担任だけではない、他の先生にもなにかとめいわくをかけ、「授業中、うるさい」や「チャイム席がまもられてない」といわれるありさまで、読者の方も「3-Aなんてまったくだらしがない」などと思っていられるのかもしれない。しかし、それは大きなまちがいである。3-Aは団結する目をみはるものがあるのである。合唱コンクールでは賞をのがすもの入賞してもおかしくない歌声を発揮し、かべ新聞で銀賞、球技大会では女子が優勝、男子もあと一步で優勝というくらいに準優勝とダブル入賞し担任も大喜び?と一致団結すると、このような偉業を成すことができる。本来、集団生活は、一致団結することが大原則である。このような長所がある3年A組はすばらしいと思う。我々はこのクラスのことを忘れることはないでしょう。

(波多野 記)

卒業生一人一言

3 | A 編

我は闘志を常となすべし!!

いつか孔雀のように.....

全力!!

誰かオレに髪の毛くれ

良人放蕩な悪性○旬憐淫猥の情

五稜中、なにもかにもなつかしい

また会えることを望んで

下天の如く、くらぶれば

夢幻の如くなり

人生は七転八起

ALEKUSANDOLAITO

SEE YOU AGAIN

いい言葉がうかばねえよ〜ん

さよならドンメエ

BYE FOR NOW

オレは正義の味方がツチャマンだ

寒い夜の自画像

みんないいの書いてんなぁ.....

相場 尚人

石田 克久

奥谷 智之

小川 佳也

木村 晋哉

里村 優太

島田 幸詞

滝田 圭

立林 英明

谷口 哲将

波多野裕介

花田 恵広

福田 尚記

藤島 純一

藤野 健太

布施 央

三沢 健太

吉田 忠生

吉田 雄一

萩原聖人君 もっとTVに出てね

保阪尚輝君 もっと映画に出てね

いつかまた会える日まで.....♡

輝かしい未来へいざ出陣じゃーっ

ニラ畑よ永遠に.....

的場浩司♡どうして工藤静香と:

また、いつか.....

ださくても流されても自分らしく

いつの日も私らしく

エドワード 大好き

吉田さん、もっと頑張ってね!

100の言葉より1つのKISS

自分らしく素直でいたい.....♡

あの頃にもどりたい.....

さようなら

板垣 智子

内田 菜子

遠藤 雅子

大島 典子

岡村 優

久保田華世

後藤 淳

柴山 京子

志村 芳美

富樫 真琴

光谷 利恵

安原 ゆかり

山村 真澄

吉田 梢

森 亜弓





米内山	佐藤(寿)	荒井	畑中	川村	吉村	輪島	服部	水山
嶋田	埜中	伊藤	佐藤(圭)	栗谷川	田原	榎引	穴倉	福田
	橋爪	浜林	高田	長内(陽)	小松	田口	吉田(裕)	石沢
金城	長内(礼)	吉江	井筒先生	校長先生	教頭先生	古館先生	増田	中村

3-B

俺達の青春

古館級

一九九〇年、四月、俺達は希望と不安に胸ふくらませ、入学してきた。あれから早三年、気づいてみたら立派な体と、素晴らしい知性にあふれた、立派な中学生じゃないか。静かに目を閉じたら、五稜の中学校生活の思い出が走馬灯のようによみがえってくる。その中でも中学二年の時の三十四人の仲間達との出会いがとてもしつこかった。

「三年B組」。俺達はとてもしつこいチームだった。文化祭での合唱コンクールは2年連続金賞を受賞。体育大会などでは8枚も賞状を荒かせましたりと、チームワークは抜群であった。体育教師・土白館勉氏(通称・フレッシュ)は俺達の頭であり、よき相談相手、まさに俺達の「兄貴」のような存在だった。その兄貴ともこの卒業をもってお別れ。俺達は「ありがとう。」の大声で叫びたい。

最後に、大人になった俺達は今、この五稜中を出発点として旅立つ。そしてこれから向かってくるいろいろな困難に耐えぬき、そして、勝つ!!

「さあ、みんな、未来に向かって力一杯、燃え尽きるまで突っ走るぞ!!」(執筆者・吉村)

「卒業生一人一言」

31B 編

落書の教科書と外ばかり見てる俺。

GOD BLESS YOU!

努力根性義理人情Ⅰ。

「極楽往土」

We are forever!

また会おう。

またあおうぜ。

BYE FOR NOW.

ファイティング スタリット。

Stay Dream.

「極楽浄土」

Heart and soul.

愛! No Return.

十五字以内で書ききれねー。

愛こそはすべて

努力根性義理人情Ⅱ。

こっか想い出すことでしょう。

POWER OF LOVE.

I LOVE G.W. BY 渚

穴倉 誠

石沢 匠

小野 篤

櫛引 豊明

小松 秀明

田口 謙一

田原 裕介

中村 大介

永山 一雅

服部 智行

福田 直樹

増田 豊

吉田 深

吉田 裕輔

吉村 徳泰

輪島 拳

荒井 真由美

伊藤 絵美子

長内 礼

今すぐ幸せの缶詰がほしい。

貴方がいれば泣ける程幸せになる。

あなたとずっといたかった。

あなたと友達関係になりたかった。

貴方は私の輝く太陽でした。

ずっとあなたを思っていたい!

支配からの卒業、闘いからの卒業。

愛はNatural.

8月23日 あなたは覚えてますか。

BELIEVE YOU.

また会えるよね・・・

いつもそばにいて、勇気づけて。

私へのプレゼントは桃の缶詰ね♡

淋しすぎた、思い出だらけの卒業。

長内 陽子

金城 英玉

川村 絵吏奈

栗谷川佳奈

佐藤 圭子

佐藤 寿子

嶋田 亜樹

高田 由佳里

桢中 千鶴

橋爪 有希

畑中 琴江

浜林 恵

吉江 美雪

米内山朋子





松本	吉村	田山	張間	板谷	今井(貴)	小林	野呂	小笠原	工藤	漁	矢尾板
島田	中者	二瓶	柳町	戸島	菊地	久留利	久保	佐藤	紫前	佐々木	
山本	門口	池田	山根	三浦	信田先生	校長先生	今井(里)	坪川	畑沢	筆村	松尾

3-C

その中で生きてきた日々

信田 級

色々な娘がいた。色々な奴がいた。色々なことがあった。二年間、その中で生きてきた。なんてことはなく日々を過ごした。気付くのが遅すぎた。気付いてからは一日一日を大切に過ごそうと思った。全てを記憶に焼きつけようとした。しかし残された時間は哀しくなる程短く、そして恐ろしく速く流れていった。二年間という時間は私の知らないところで行方不明になっていた。新聞のたずね人欄にも載らず、警察でも「よくあることさ」ととりあってもらえない。

私の脳裡には、二年間の出来事のクライマックスだけがボンボンとテンポよく、まるで映画の予告編のように映し出される。今はそれを楽しむことができない。

「さよならを言うのは、少しずつ死んでいくことだ」とはチャンドラーの言葉だ。私はまだ生きていたい。だからさよならは言わない。たとえ卒業してそれっきりでも、たとえもう一生会うことがなくとも。私はそこに小さな希望をこめてこう言おう。

「それじゃあ、またいつか」

(小林「おやし」優記)

卒業生一人一言

3-C 編

一歩一歩大切に

愚零闘夢多 見参

DENKIGROOVE見参!!

JUST FLY A WAY

目の前のバナナに弱じごじごじ

人生はおとぎ話だ。

毎日が冒険でござる

Going My Way

これからも元気にがんばる

つかれた

オレの青春は野球で終わるだろう

Don't lose hope

三年間は長かった

Goodluck mylove

卒業してもがんばりましょう

今年の目玉はPKOだった

今の僕を時が忘れさせてくれる

Good by my love

おがchanお元気わ・・・

池田 朋

板谷 忠典

今井 貴之

門口 陽介

菊池 勇

小林 優

島田 吉章

田山 勝彦

戸島 潤

中者 大

二瓶 匠

張間 真人

松本 健太郎

三浦 一弥

柳町 雄大

山根 誠太郎

山本 広光

吉村 孝彦

今井 里子

今井のPacoも元気でね

さよならから始めよう

さよならなんかは言わせない

POWER OF LOVE

三年間ありがとうございました。

あなたに出逢えた私を誇りに思う

忘れられない笑顔がありがとう

君を想う気持ちは今も変わらない♡

さよなら君のしぐさは忘れの言葉..

君だけはそのまま変わらずにいて

恋は先に好きになった方が負け。

みんなに出逢えてよかった..

流されずまっすぐな心を信じて

君。人生はスチャラカよ

ねえ 泣かないで.. 大丈夫

小笠原さおり

工藤 ひとみ

久保 裕美

久留利葉菜

幸崎 景子

佐々木佳奈

佐藤 千草

紫前 裕子

漁 美由紀

坪川 智美

野呂 知美

畑沢 和加子

筆村 雅理子

松尾 エリカ

矢尾板 恵





加藤 北野 金丸 山崎 塩田 藤島 藤田 山城 石田

中川 木下 小川 平岡 奥田 徳山 佐藤(啓) 佐藤(健)

村山 丸井 川淵 川村 丑ヶ谷 瀬戸 斉藤 柴谷 蝦名 鈴木

日下 中者 青木 高橋先生 校長先生 高橋 三浦 相原 小林

3-D

三年D組とは・・・

高橋級

この三年D組はとっても明るく、面白いクラスです。でも明るすぎるせいか授業中先生に怒られる時もたびたびあります。が、このクラスのもうひとつの特徴は、明るすぎるといふこととはうらはらに、ずばぬけた団結力があります。とくに、合唱コンクールでは団結力がものをいいます。私達は二年生の合唱コンクールは金賞でした。とはいっても、B組と同成績でした。そして、今年こそはと気合をいれてがんばってきたつもりでしたが結局B組に負けてしまいました。でも、僕達は僕達なりにがんばったのでよかったと思います。一番大切なのは、成績よりも、いかに自分達が、がんばったかだと思います。そして、その時の真剣さを今度はちがう面で発揮していきたい、一人一人の個性を生かしていつかは高橋先生率いるとても活気のある組です。僕は、このクラスになっていろいろな事を学びました。特に高橋先生には、この場を借りて心からお礼申しあげます。

それからみなさんこれからもお元気で……

(柴谷 記)

卒業生一人一言

3-D 編

そう初めて会った日から君の事を
祈る気持ち忘れずに…

何事も実行あるのみ！

助け合う心を大切に…

実力は努力のたまもの成り

歩いていこう！！ BY J(S)W

継続は力なり

コイしてマスとイワシ・タイ

あらたなSTART!!

MY GENERATION

不景気をぶっとばせ

百年後、オレはアトムの子供さ!!

不景気を救う男になってみせるさ

金をためてCLORIA乗るぜ

聞いて極楽 見て地獄

さっさと高校に行きたいぞ

弱い犬ほどよくほえる

健康に気をつけて頑張ろう。

後輩のみんな部活ガンバレ!!

相原 正靖

石田 真弘

蝦名 孝康

奥田 健司

小林 亨

斉藤 康一

佐藤 啓介

佐藤 健太郎

塩田 憲介

柴谷 勝徳

鈴木 文仁

瀬戸 寿昭

高橋 利雄

徳山 諭史

藤島 昭吾

藤田 真

三浦 良三

山城 学

青木 順子

私の元気の源は貴方の笑顔です

あなたと一緒に笑いたい

みんなよい思い出ありがとさ

同窓会はつば八で派手にやろう！

夢はかなうもの

離れても私の想いは変わりません

いつかどこかで会いましょう

もしかしたら 好きかもしれない

恋は私に涙と想い出をくれた

REMEMBER LOVE…

階段の下の告白忘れないでね…

あなたの♡の愛を私に下さい。

過去もこれからも晴れたらいいね

See you again!

みんなのことは忘れないよっ

丑ヶ谷玉緒

小川 絢子

加藤 静

金丸 めぐみ

川淵 愛

川村 美美子

北野 照美

木下 真弓

日下 恵美

中川 知子

中者 徳子

平岡 操

丸井 景子

村山 めぐみ

山崎 美穂





岡山	石田	伊藤(香)	三好	佐藤(史)	伊原	佐藤(孝)	阿部		
	松居	宮腰	長内(美)	滝沢	工藤	大高	藤田	神谷	
	岡田	藤井	長内(睦)	三浦	伊藤(嘉)	守屋	西口		
植田	森	北山	丸山	佐藤先生	高野	松田	増川	天木	井岸

3-E

六十八の瞳を見つめて

佐藤 級

我が三年E組について、周りからいろいろと言われますが、一言で言ううと「個性的」です。しかもそれぞれのアクの強い個性が一つになって独特の雰囲気をかもし出していて、そのベースに巻き込まれると、どんな人間でも性格が変わるのはマチガイなし!!とのお墨つき。

とにかく、団結力の無さは学年一!!これだけの個性をまとめるって言うのがムリなのかどうか、何にしても人の言うことを聞かない。それなのに、ヘンな所で一致団結して騒ぐのだけはお手のモノ。

でも、本当は、そんなに変なクラスではないんですよ。ヤル時はヤルって感じで、お陰サマで、何とかやってこれました。みんな楽しい人たちばかりで、それが高じて困ってしまった事もあったけれど、それはそれなりに、今ではみんなのいい思い出として残っているのではないでしょうか。

最後に、こんなにとってもないクラスを、二年間支え続けて下さった佐藤先生、本当にありがとうございました。そしてご苦労サマ。

— それでは!!

(宮腰 記)

卒業生一人一言

3 E 編

ギラッ！我が生涯一片の悔いなし
長かったようで短かった三年間
保母さんになりたい♡俺の夢♡
五稜中は永久に不滅です。
.....

我が光よ永遠に

GOOD LUCK、

ぼくの頭は油田地帯

あっ！猿だバザールでゴザール♡

ワヤッ、ぼくの頭はフケエリア

いつでも目的を持って生きてたい

五稜中学校は永遠に不滅だ！！

じゃあな！！までオレはカエルか？

卒業だね。そうだね。オホッ。

キミに永遠の栄光あれ。b.Yまゆ

私のことを忘れないでね♡オホッ

白豪政策万歳！！

深いもりやはやしをとおるべし

まいにち歯をみがこう。

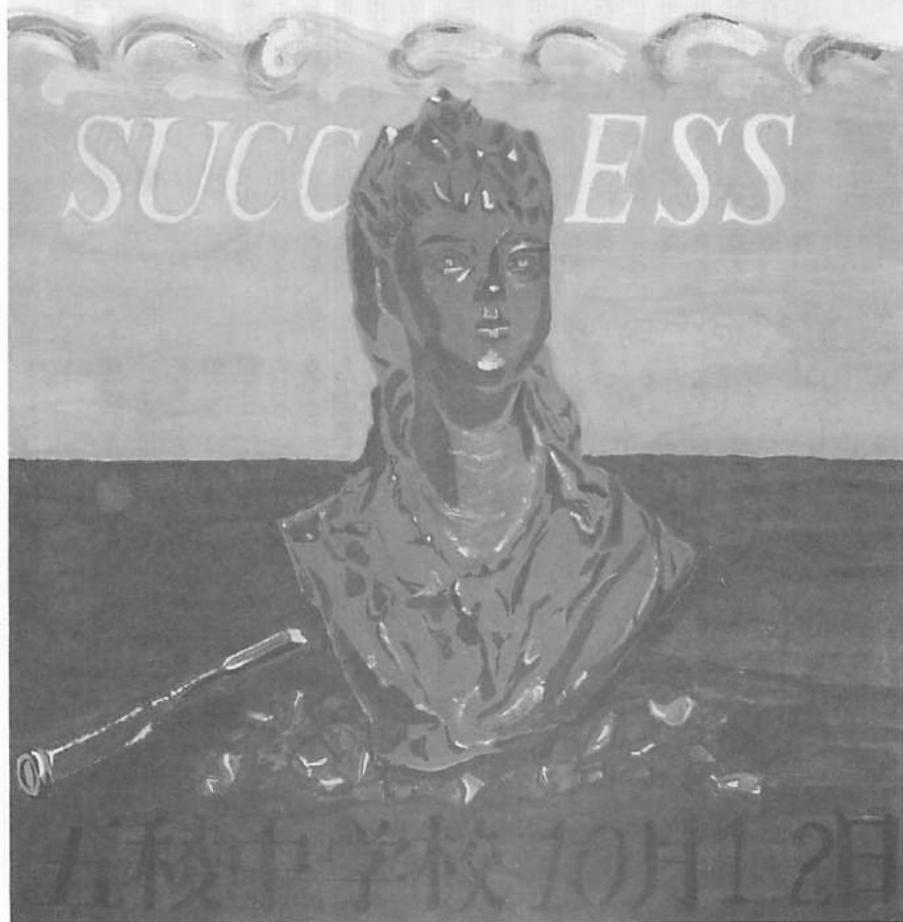
阿部 正亮
天木 敏行
井岸 憲彦
伊藤 嘉展
伊藤 和広
大高 尚
神谷 誠
工藤 宏輔
佐藤 孝博
佐藤 史明
高野 貴之
玉森 博和
西口 勇
藤田 一行
増川 健二
松田 直人
三浦 健太
守屋 徹
滝沢 亮



貴方がくれたもの大事にするね♡
ほこりに思うよ きみの横顔♡
卒業してもみんながんばろう
See YOU AGAIN、
遠くに行ってもずっと忘れぬい。
高校行っても元気でね！
みなさん、ごっきげんよー。
貴方の優しさ忘れぬい……♡
OVER THE TOP
BYE-BYE、
私のことを忘れちゃイヤーンだよ
あの瞬間・あの人・あの笑顔……
みんなに会えたから今の私がいる
さよならなんてしたくないわ♡
自由に生きようぜ！自由に

石田 千枝
伊藤 香苗
植田 ひとみ
岡田 静香
岡山智恵子
長内 美穂
長内 睦子
北山 明日美
笹木 香織
藤井 麻子
松居 佳子
丸山 恵
宮腰 聖子
三好 美和
森 麻子

第32回 文化祭



函館市立五稜中学校 3 学年

山崎美穂

東北修学旅行記 (5月9日～5月12月)



「旅での触れ合いに学ぶ」

一日目 (五月九日―海峽二号で青森へ)

思い出を異郷で

三年C組 久留利 葉 菜



の内部ほとんどが、興味津々たる空気に染まる。「事故があったそうだな。」噂は噂をよび、アッという間に広まった。車内放送がかかり、噂は事実。「三十分遅れます。」青森駅に到着したのは、それから約一時間後。若い私達も、さすがに口数は少ない。さて、駅に着いてからは、すぐにバスへ乗り込んだ。楽しいガイドさんと一緒に、東北自動車道に入る。花輪サイドエリアで停車。嬉し楽しランチタイム。みんなは、直ちに元気になる。日差しも暖かい。異郷の地巡り、思い出の日々。それは今日、始まったばかりなのである。

五月九日、早く起きる。今日は修学旅行第一日目。寝坊する人はまずいない。冷静沉着な態度を装って私は私の家を出る。空はとても青く、そして澄み渡っている。爽やかな朝である。七時二十分、函館駅集合。七時五三分、海峽二号で函館を脱出。四日間近くも家を離れる事は久しぶり。何とも言えない嬉しさがある。津軽海峽を経て、青森駅目の前にして、何故だか窓の外の景色が静止した。汽車

一日目 (平泉中尊寺―衣川荘)

心休まる平泉を見学して

三年E組 三好美和



修学旅行の第一日目、私達は中尊寺を訪れた。

そこには昔の華やかさはなく、緑いっぱいには囲まれ、とても落ちついた雰囲気を感じさせた。

天候は悪かったが、とても蒸し暑く、みんな汗びっしょりになりながら急な坂を登り中尊寺本堂などを見学した。

その中でもみんなが一番楽しみにしていたのは、やはり金色堂だった。金色堂は、目にもあまるよう

な光で藤原三代の富と力を物語っていた。

ガイドさんの説明によると阿弥陀三尊が安置されている下には藤原三代の棺がおさめられているということだ。

私はこれを聞いて、とても気持ち悪くなった。

それからみんなは、学問や縁結びなどのお守りを買ってそこをあとにした。

坂を下り、みんな土産屋へ直行。

やはりみんなの目は、これ以上ない輝きを見せていた。

二日目 (五月十日―狹鼻溪で舟下り)

山水画を進み行く舟下り旅情

三年D組 丸井景子



五月十日、修学旅行二日目の晴れ晴れとした天気のおかげで、わたし達は、げいび溪の舟下りへと出発しました。

昨日の思い出に浸っている人、舟が動き、はしゃぐ人、もう昼食のことを考える人など、私達の思いはさまざまでした。

しかし、船頭さんの説明が始まると、皆それに耳を傾け、説明される景色に目を向けました。

同時に「あまよけの岩」や「獅子ヶ鼻」などたくさんさんの山水画に心を踊らせました。

船頭さんがしばしば言ってくれたギャグにわたし達は笑顔を送り、このげいび溪の舟下りを楽しみました。

そして、川中に響きわたる船頭さん達の「げいび追分」を最後にわたし達の舟旅は幕を閉じました。

最後に、あの数々の山水画がいつまでも破壊されることなく、残っていることを願いたいと思います。

二日目 (龍泉洞)

龍泉洞が語る別世界

三年C組 佐藤 千草



修学旅行二日目。私達は龍泉洞へやって来た。

足場が悪いので注意しながら洞内へ入っていくと、とても寒かった。そのうち、目の前にすいこまれそうなほど、透明な地底湖が現れた時、とても感動しました。全然別の世界にいるようで、まわりの雑音もきこえず、人の中にいることも忘れていて、自分がまるでどんどん地底湖へ、沈んでいくような気分でした。

私を現実へと引き戻したのは、恐ろしいほど急な階段でした。女子は制服だからもちろんスカートで……。後ろから来ているうれしそうな他クラスの男子に、担任の先生がしきりに、「C組の女子のはのぞくなよ、それぞれ自分達のクラスにしろ。」とわけのわからないことを言っていたのが忘れられない。(これほど、龍泉洞の地底湖のように深く透明な先生からの愛情を受けたのは初めてだ)

そうこうしているうちに、出口へ。まぶしすぎる太陽が、まるであの神秘的な世界が夢であったような気にさえさせていました。

二日目 (グリーンピア田老・夜のレク大会)

忘れられないレクの夜

三年B組 橋 爪 有 希



今、修学旅行のレクを振り返ってみて思いだせるものは恥ずかしかったということしかない。

青い衣装に身をまとい、へったくそな歌を歌ってへんな踊りまで披露してしまったあの時の自分を思い浮かべるだけで地下300mまで穴を掘って埋まってしまいたい気分である。

が！しかし、あのステージに上がるその日まで誰も知らない汗と涙のにじむ苦勞があったのだ。

本当はドリカムが良かったけどやむなくキャンディーズにしたこと、放課後、遅くまで振りつけに励んだこと、緊張のあまり、おいしそうな夕食ものを通らなかつたこと……etc
だけどその苦しみ(?)もむくわれて私達は、なんと「グリーンピアたろう賞」という栄誉ある素晴らしい賞をいただきました。ありがとう。

私にとってレクは触れたくない出来事のうちの一つだけど、あの恥ずかしい思いと、賞品のかにまんじゅうの味は一生忘れない。

三日目 (五月十一日) 盛岡手作り村での体験学習

思い出の作品「馬コ」

三年B組 佐藤圭子



いろいろ見学し、次に私達を待っていたのは、手作り村での体験学習だった。

私は、「馬コ」のグループに入っていた。心の中は、

「上手に作れるだろうか？」

という不安と、緊張感、少しの期待感でいっぱいだった。

真剣に職人さんの説明を聞き、いよいよ作業開始。まず口を塗り、鼻を塗り、耳を塗って色づけが終わった。次は、尾や鞍をボンドでつける作業、そして鈴や手綱を釘打ちするまでは、人並みに順調に進んだ。いつも釘打ちすると横に曲がってしまうのだが、この日はとても上手に打つことができた。最後には、目を書いて終わるはずが、なかなか思うようにはいかず苦戦した。そうしているうちに、「馬コ」が完成した。目が下手にいき、馬コには悪い気がしたけれど、心の中では、苦勞してやっと出来上がったという安心感と、とても大きな満足感でいっぱいだった。私はこの「馬コ」を思い出の作品として、自分の部屋に飾っておこうと思う。

三日目 (小岩井農場)

小岩井農場での一時

三年B組 吉江美雪



三日目、五月晴れの良い天気の中で、私達はバスの中で、もうすぐ着く目的地の前に少し浮かれた気分が騒いでいました。そんな中で突然、「ぐー」という奇妙な音が。結局誰だったのか未だに不明ですが、自分も同じ状態だった事は覚えていきます。そして農場に到着。

一面に広がる芝生の中に赤や黄色の小さな花。遠くに見える木々の向こうにはまだ雪が残っている藤色の山。心地よい風が吹き、余計、食欲をそそるような風景でした。ふと反対側に目をやると、羊の姿が。瞬間、友達と目を合わせてしまいました。「もしかして、この羊食べるの？」そんな事は忘れて、誰もが楽しみにしていたジンギスカン。白い紙の前かけをして、みんな小さい頃にもどったようでした。初めは女の子らしく、おとなしく上品に食べていた私達でしたが、だんだん本性がでてきて、男子に負けないくらいのスピードでした。牧場の中のジンギスカンは、やはりいつもより数倍おいしく、もう一度行きたいね。なんて言っている私達でした。

三日目 (角館・田沢湖―山麓荘)

かくのたて かのざい
角館と樺細工

三年D組 佐藤 健太郎



修学旅行も三日目。長時間のバス移動で疲れが見え始め、さらに冬が恋しくなるくらい強い強烈な日差し、その上、制服は冬服で、ジャージも紺色。おまけに昼食はジンギスカンだった。というレベルの暑さだったので、とても酔っていた(バスに)人も多く、気持ちよさそうに眠っていた人も多かったのだ、静かな車内だったが、次の目的地である角館で、一斉に起こされた。

バスを降り、手づくりアイスの店の前を通って、木陰で写真撮影をした。その後、青柳家、ハイカラ館の見学に移った。

秋田県東部、横手盆地の北部に位置し、もとは城下町であった角館は、樺細工(山桜の樹皮を張った工芸品で、もともと武士が内職していた)で有名なのだそうで、実際に、みごとに樺細工も見ることができ、作り方の実演も見た。土産屋で、ゲロゲロ棒を鳴らして遊び、アイスを食べ、いい気分、次の目的地である田沢湖へ向けて出発したのでした。

四日目 (五月十二日―マインランド尾去沢―燻函)

忘れがたきみちのくの旅

三年A組 谷口 哲将



四日間にわたる修学旅行もいよいよ最終日を迎えた。まだ雪の残る田沢湖高原を出発し、最後の見学地である尾去沢に到着したのは昼近くだった。中に入ると、長々と坑道が続いていて、所々にキラキラと輝く銅鉱脈が見える。また、鉱山での仕事の様子や江戸時代の採掘の様子、隠れキリシタン等が人形で再現されていた。また説明も、それぞれに渡された携帯式の器具のおかげで、よく聞くことができた。でもやはり一番印象に残ったのは不思議な光線を放つトンネルだった。中に入ると白い物がみな怪しく光るのだ。そのせいで見る人の顔がすべて不気味だったことをよく覚えている。

このようにして尾去沢の見学を終え、東北に別れを告げ、一路函館へ向かった。家族や先生方、知人達の待つ函館へ。

今回の修学旅行はこうして終わった。この四日間という短い時間の中で、みちのくの人々にふれ、文化にふれる中で多くの事を学んだ。この貴重な体験を忘れることなく、いつまでも大切にしたい。

この一年の
軌 跡

体育行事

栄誉を讃えて

平成
四年度

《中体連競技大会》

。卓球

団体戦

個人戦

優勝

第二位 西口 勇 (三年)

第三位 増川 健二 (三年)

第三位 大高 尚 (三年)

(右の三名は全道大会出場)

第三位

。野球

。バスケットボール

女子

第三位

。柔道 個人戦女子56kg以下級

第三位 久留利 浩代 (一年)

。陸上競技

一〇〇M 第八位 戸島 潤 (三年)

一一〇MH 第六位 戸島 潤 (三年)

砲丸投 第二位 滝田 圭 (三年)

三種競技A 第六位 木村 晋哉 (三年)

三種競技B 第八位 二瓶 匠 (三年)

八〇〇M 第二位 西口 しのぶ (二年)

砲丸投 第三位 久留利 菜菜 (三年)

三種競技B 第八位 安原 ゆかり (三年)



受賞一覧



水泳競技

一〇〇M平泳	優勝	小笠原 さおり	(三年)
二〇〇M平泳	優勝	小笠原 さおり	(三年)
一〇〇Mバタフライ	第三位	黒田 史穂	(二年)
二〇〇Mバタフライ	優勝	黒田 史穂	(二年)
《全道中体連水泳競技大会》	第五位	小笠原 さおり	(三年)
二〇〇M平泳	第三位		
《道南卓球新人戦》	団体戦		

文化行事

《吹奏楽コンクール》

函館地区大会

銀賞

《中学校夏休み自由作品展》

社会科学教育研究会

銅賞 久留利 浩代 (二年)

《全日本書道コンクール》

中二の部

最優秀大賞 柏 充 (二年)

《南北朝道学生書道展》

優秀賞 柏 充 (二年)

《毎日子どもピアノコンクール》

函館地区中学校の部 銀賞 佐々木 美嘉 (二年)

入賞 丸井 景子 (三年)



受賞作品 (書道)



一年A組
明るい学級

村井貞夫先生

ぼく達一年A組は、男子二十人、女子十六人のとても明るいクラスです。しかし、明る過ぎて騒がしくなるのが学級の短所とも言え、先生方に注意されることもしばしばです。

そして、この学級の団結力はとても強く、体育大会から文化祭の壁新聞コンクールやポスターコンクールなどさまざまな賞をいただき、学級の壁には数多くの賞状がはられています。

担任の村井先生は、勉強のことに关してはとても厳しい先生ですが、とても優しく、明るく楽しい先生です。そして、先生は読書家であり、毎日本を読み続けていると言うことです。

その先生の下で一人一人が目標を立て、その目標に一步でも近付こうと頑張っているのが、授業態度も少しずつですが落ち着きが見られるようになり、テストに関しても前向きな姿勢が見られる様になりました。これは、一年A組にとって、すばらしい進歩なので、これからも、もっともっと力を入れて取り組んでいきたいです。

中学生になったと言ってもまだ一年生です。しかし、もうじき二年生になるのだから「まだ一年生だ」なんて言ってはいられません。そのためにも、自分の短所をできる限り長所に変えられる様に努力をし、頑張り通すことができたなら、一人一人が成長して立派な二年生として、新学期を迎えることができますと思います。

これからも友情を深め合い楽しい学校生活が送られるように頑張りたいと思います。

(高田 明典 記)



一年B組

団結一B

萩野雅彦 先生

僕達一年B組は、男子二十名、女子十五名で構成された、とても明るいクラスです。しかし、授業中すぐ騒がしくなり、先生に注意されることも、よくあるクラスです。そんなクラスですが入学してきた時は、みんな緊張していたのか、給食時間の時は、スプーンと皿がぶつかった時の「カチャカチャ」という音だけが、むなしく教室中に響いていたこともありましたが、今では、そんなことがあったと思うのがうそに思えるぐらいのクラスになってしまいました。

担任の萩野先生は、勉強に熱心で、また合唱コンクールや壁新聞の時には僕達の手伝いをたくさんしてくれる面倒見のいい先生です。ところが、一年B組は、賞がなかなかとれず、今までは、球技大会で女子がバレーボールでとった二位の賞状しかありません。

入学してまもなくあった体育大会。みんな一人一人が頑張ったつもりだったのが一枚も賞状がとれないまま終わってしまい、「今度こそ頑張ろう」と思っていた文化祭でしたが、大菱先生に協力してもらった合唱コンクール、壁新聞と、結局はまた賞状は、とれませんでした。ほぼ一年で、一枚しか賞がとれないのは、やっぱりみんな努力がもう少し足りなかったせいなのか、ちょっとひかえ目すぎたせいなのか、どちらだったのでしょうか。

さて、僕達もあと数日で二年生になるのです。入学してきた時の気持ちではいれませんが、どこから見ても立派な二年生と思われるように、なれるかが、今の僕達のあたえられた試練なのです。

(葛葉 悠一 記)



一年C組

笑顔がいっぱい明るい教室

大村俊幸 先生

私達一年C組は、とても明るくいつも笑顔で静かにするということをしらないみたいです。入学した当時はというと、今ではとても考えられないほど静かで、給食を食べていると大村先生が、「おい、静かだなあ葬式してるみたいだな」といったことがとても印象的にのこっています。今ほというと、先生に注意されても静かにならず、大村先生の口ぐせは、「静かに」「ざわついているぞ」「ちょっとうるさいんじゃないか」といろいろといわれます。でも、こんなうるさい一年C組も、やる時はやります。その証拠に、一年C組の壁には、ずらりと賞状が並んでいます。これは、一年C組の仲間が一人一人を信頼し、クラス全員で力をあわせているからではないでしょうか。

しかし、このとても明るくいつも笑顔で静かにすることをしらない一年C組でも短所はあります。それは、忘れ物が多いということと、さわいでいて先生に注意されるということです。この二つは、なおそうとクラス全員で心がけていても、なかなかおらないのです。この二つは、これから二年生になるまでの一年C組の課題だと思えます。

みなさん、一年C組というとても明るいクラスをおわかりいただけましたでしょうか？これから二年生になっても、三年生になっても、とても明るくいつも笑顔でを忘れずにいてほしいですね。

(黒田 史穂 記)



一年D組

ぼくが見た一年D組の姿

浅井庸子先生

一年D組は、男子が二一名、女子が一六名、計三七名のクラスで、ぼくから見れば、皆、個性的で、全体的に、明るいクラスの部類に入ると思います。ぼくも、毎日このクラスで学習しているわけですが、いろいろなタイプの人がいて、普段、何げなく、交わしている会話を聞くだけでも、とても楽しく、また、誰と誰が話しているかわかります。男子はみんな仲が良く、みんなとてもいい人ばかりで、とても良いのですが、女子の間には、数人で集まってグループを作り、その中の人だけと仲良くする、といった傾向が見られるようです。その点については、改善していかなくてはならないと思います。

申し遅れましたが、学級担任の浅井庸子先生は、女子の体育の先生で、とてもやさしい先生です。先生は、今、チャイム席を改善しようとしているようです。

一年D組には、四枚の賞状があります。この四枚の賞状は、ぼくたち、一年D組全員の、努力の結晶で、かけがえのない物です。校内体育大会での女子の二位入賞、合唱コンクールでの銀賞、校内球技大会での、男子二位、女子一位入賞、どれ一つを取っても五稜中学校の全校生徒に、誇れる事だと思えます。また、これらの賞状は、私たち一年D組が、これまで努力してきた事の証であり、これらの事を、やりとげたという自信です。これから二年生になると、みんなバラバラになってしまふけれど、それぞれのクラスでがんばっていきける、ぼくは、そう思います。

(杉村 哲人 記)



二年A組

二一Aのすべて

辰宮 稔 先生

二年A組は、男子一七人、女子二一人で計三八人のおもしろ楽しいクラスです。

担任の辰宮先生は、とても厳しくギャグの一発も飛ばせないような恐ろしい先生です。おこると突然目の色が変わり、毛がさかたつようです。がしかし、勉強にはとても熱心で一生懸命教えてくれます。

そんな担任のいる二年A組は学級目標が、努力、根性、気合い、というように、目標からしておもしろいクラスです。

授業中は、はじめに一生懸命やっている姿もあるけど、うるさくなる、とまらなくなるといふ欠点があります。

生活面では、第一に忘れ物しらはやっていますませんが、忘れ物をしないように一人一人が気をつけているのか、とても忘れ物が少ないです。(?)

朝学習は、点検をしているのか、一人一人がやる気があって、やっているのか、とても一生懸命取り組んでいます。(?)

クラスの賞状数は何枚あるかわかりませんが、クラスには一位の賞状しか、はってくれません。二年A組は、スポーツ面がいいのかスポーツの賞状がけっこうはられています。(約4枚)

「二年A組のすべて」を読んで、本当にありがとうございます。

これから、三年生になっても、今までの経験をいかして、がんばっていききたいと思えます。

(福井・柳上 記)



二年B組

It was E-BでそれよりBだった

木村 以久子 先生

我が二年B組は、自称美男子十八名、本物の美女二十一名とこの三十九名と学校での保護者である以久子先生からなっています。

では我がクラスを紹介しましょう。

まず初めに担任の以久子先生は、指輪の石を紛失し、泣いていましたが、一ヶ月後見事生徒二人が（私達のことぢゃ〜）見つけてくれて超HAPPYな先生です。男子はよく言えば明るい、悪く言えばやんちゃBOYSです。女子は個性様々で、もの静かなGIRLSです。

もう一つ。あの以久子先生は、なんとなく賞状集めが大好きな先生です。その証拠に個人のものも含めて十枚の賞状がドテインと張っているのです。我がクラスは、このように団結力が強く、個性豊かで明るく、しかも美男女がそろっているのですから、もう言うことにはないクラスです。（これに文句がある人はいませぬよね？）ちなみに成績は……。中の上くらいでまあまあ良い方です。

最後に以久子先生にII-Bについてどう思うか、聞いてみましょう。先生、カンタンにどうぞ！

「エッヘン！ カンタンにですか？ 難しい問題ですね。

とにかく、明朗、隠れたエネルギーのある学級でした。各行事ではよく努力し、心の中でいつも拍手していました。ガッツだ二B負けるな二B ファイトだ二B 三年生になってもがんばれーッ！！三年生になっても、今のII Bの明るさを失わず、これからも頑張っていくましょ。

（山川・稲岡 記）



二年C組

あるおばあさんが語る

斉藤 克己 先生

「一七」「二二」：はて、何の数だろうね、これは。なにか聞いたことのある数だけ……。ああ、そうか。二年C組の人数だよ。ほら、男子一七人女子二二人じゃないか。あ、そうそう、二年C組の紹介をするんだっだね。私の知っているかぎりのことを教えるよ。どっしらしょ〜と。

二年C組〜とても明るいクラスだよ。一学期のころはまとまりがなくてね。そりゃあ困ったもんさ。学活のときもうるさくて、小さな声だとうしろまで聞こえない。大変だったよ。それから学級目標の一つ「一人一人を大切に作るクラス」っていうのがなかなかできなくて……。でもこのごろ少し成長したのか、人を大切にできる人が多くなってきたんだ。そして、あることがきっかけでだんだんまとまりのあるクラスになってきているよ。そのきっかけは何かって？ 合唱コンクールさ。合唱の練習はまずうるさかったね。賞はあきらめかけてたんだけど……。途中からみんながんばりはじめたんだよ。そして当日金賞とったんだ。いやぁ、おどろいた。私は本当にうれしかった。あのときのみんなの瞳は本物の一生懸命、だったんだ。その一生懸命に感動しちまったよ。人間ってのは、きちんとまとまればなんでもできるもんなんだね。まったくすごい子達だよ……。二年C組っていうクラスはだんだん完成しつつあるんだ。一つの集団としてね。担任の斉藤先生も一人一人の個性を生かしてくれる人だから。「一人の人間」としての完成ももうすぐだろうよ。みんな……。いつのまにか大人になってきたね……。おっととまづい。ハンカチ、ハンカチ……。

（館下 ひとみ 記）



二年D組

しっかり！二年D組

松山 元彦 先生

わが二年D組は、学級紹介するまでもなく、見た通り男子十八名女子二十一名計三十九名の明るく、努力家の多いクラスです。

球技大会では男女共に優勝、合唱コンクールでは銀賞を、とチームワークと協力はバッチリです。

しかし、チャイム着席がイマイチ守られていません。

生活委員の方でも呼びかけているし、松山先生も生活面での指導は特に熱心で、チャイム着席が守られるように日々努力を重ねているようです。

一方、授業中とは言えば、教科によってはとてもうるさくなり、一端始まったおしゃべりはなかなか止まりません。

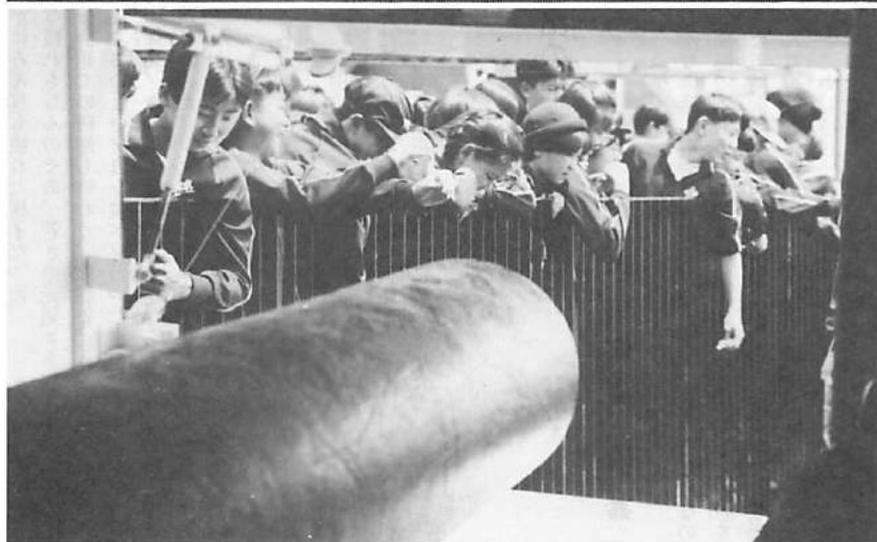
一变して給食時間は、みんな食べることに夢中で、たいてい静かです。

このような二年D組でも、一人一人が目標に向かって一步一步前進しています。

それぞれの個性や長所を生かし、これからも大きく前進、大きく成長し、自分の未来をしっかり築きあげてほしいです。

(山名 梨絵 記)





一日目

「江差の町で」

二年D組 吉田 由貴子

平成4年6月25日、その日うきうきドキドキしたみんなの気持ちに
応えるかのようによく晴れわたり、すばらしい天候に恵まれた。
そして、それぞれの宿泊研修に対する期待、思いを胸にグラウンド
に集合した。いろいろと注意事項を長々と述べてくれた出発式も終
わり、いよいよ出発のため各クラスごとにバスに乗り込む。その時
の一番の話題は、バスガイドさんが美人かどうかだった。

バスの中から変わりゆく窓の外を眺めたり、おしゃべりをしてい
るうちにいつのまにかバスは目的地江差へと到着していた。私達が
一番はじめに江差の歴史に足を踏み入れたのは、あの全体を黒で統
一したカッコいい開陽丸だった。開陽丸の中のロウ人形があまりに
もリアルすぎてビックリしたのが印象的だった。

かもめ島で昼食をとりました。ある女子は乙女チックに花のまわ
りで、ある男子は敷物を出すのがめんどくさいと設置してあるベン
チで食べた。その後、休憩のひとつきを過ごした。

今度は、グループ自主研修としてグループごとに郷土資料館、中
村家、横山家などをまわり、調べたいことやスケッチを終え、集合
場所の追分会館で集まった。しかしこの時、ただでさえも良い天気
で暑かったにもかかわらず、昼を過ぎてからその暑さもピークとなっ
てしまい、さらに坂道がとてつもなく多い江差の町をひたすら歩い

たのでさすがにみんなも疲れた様子だった。

でもそんな疲れもなんのその、若さの元氣エネルギーとは恐ろしいもので追分会館での研修も終わり、旅館着、入館式後それぞれの部屋へ、そしておいしい夕食を食べ終わった後のレクリエーションでエネルギー爆発ノさっきの疲れのひとかけらもみせないほどの異常な盛り上がりだった。レクリエーションでは、第一部カラオケ大会が各クラスから2組計8組が、第2部では〇×ゲームを全員で行われた。思いつきり楽しんでた。

旅館の夜でも元氣はとどまることを知らず、見回りの先生方を困らせていた。

中学生になって初めての泊まりがけの旅行、この夜、寝なかった人は何人いただろう？平均睡眠時間は何時間だろう？

旅館の外は、かえるの声だけが静かに響いていた。

二日目

思い出の地・江差を後に

二年B組 佐々木 美 嘉

朝、私はみんなの話し声や笑い声で目をさます。本当はだめなのに、となりの部屋の子もうちの部屋へ来てゆうゆうとおしゃべりしている。まだ五時前、眠い目をこすりながら、この部屋で一番最後に起き、みんなの話しに加わった。部屋を見渡すと、ぐちゃぐちゃに汚れている。これはきのうおそくまで起きて遊んでいたからだということを思い出した。

そろそろ、先生が朝の見回りにくるころだということで、ひと足早く、布団をたたんできれいに掃除した。それを見にいらっしやった先生にほめ言葉をいただく。

朝食の時、他のクラスの子とときの夜の話しなどをした。みんな夜遅くまで起きていて眠いはずなのに、なぜか、このすがすがしい朝で、はつらつとしていた。

いよいよ、二日間お世話になった緑館とお別れがきた。旅館前に集合し、退館式で緑館の方たちにもいいっぱいお礼をした。もう一日泊まりたい気分だ。でも、そんなことは、いつてられない。明日からまた、ふつうどおりの学校生活が始まるのだから。

帰りのバスの中では、担任の木村以久子先生の提案で各班から、班長がクイズなどを考え順番に発表していった。みんな疲れていたにもかかわらず、とても活発に答えていった。そのうち、先生自らも他の先生のことや、以久子先生自身の私生活のことなどをクイズにし、当たったら賞品つきということで、みんなを楽しませた。

やがて、一時間半はあっという間に過ぎ、外は見慣れた風景だった。

私は学年委員として、この二日間のために、何か月も前から、放課後遅くまで残って、しおりをつくったり、集会の企画、運営、司会進行などを委員会で話しあったりしてきた。だから、みんなが、けがや病氣もなく、過ごせたことはとても良かったと思う。それに、友達が「宿泊研修楽しかった。」などと言っているのを聞いて満足している。二日間、短く、あっけなかったが、とても有意義な研修だった。

来年の修学旅行では、この宿泊研修をいかし、思い出に残るよいものにしたい。



司会

これから生徒会座談会を始めます。今回のテーマは「誰の為の生徒会か」ですが、結論から言って、生徒会は生徒の為にあるものです。しかし、二年間の活動を通して感じたことは、生徒会と生徒のあいだにズレがあるのではないかと、ということとです。まずはその「ズレ」について話しあってもらいます。私達が頑張っている、生徒の方では「勝手にやっつろ」という感じだと思います。特に校外清掃などの活動のときはひどいですね。

山川

生徒会はどうしても堅いかまじめだとかの、変な固定観念を持って見られる存在であると思います。

佐藤

いや、そんなことはないでしょう。総務は総務で毎日の生活があるんだから、それに接している人はあまり固定観念はないと思うね。

谷口

でも逆に普段接していない人には固定観念を持って見られるとおもうなあ。

宮藤

総務自体は他の人と別に変わりはないはずですが、生徒からある一定のイメージを持って見られると、どうしてもズレが生じてきて、それが結局無関心に結びつくと思います。

柏

例えば行事の中で僕が失敗をしてしまうと、生徒からは文句は沢山出てくるけど建設的な意見はほとんど出ない。これではどうすればいいのかわからないですよ。

斉藤

私も総務になる前は、生徒会というところ「堅い」というイメージがありましたけど、実際はそうでもなくて、面白いんです。

西口

会議のときなんか楽しいくらいですね。私のクラスの友達もそんなに総務がまじめだとは思っていないみたいですよ。

金澤

僕の場合はどうしても遠い存在だったです。生徒会室は近く

にあるのに、総務の人達とはすごく距離があるみたい——後輩からはそう見られるかもしれないけど、先輩には生意気だと思われやすいです。

山口 総務は普段目立たないし、生徒の前に出るのは、朝会か行事くらいなので、固定イメージがつきやすいのだと思います。今回の選挙は全て信任投票だったというのも、候補者がなかなか出ないという無関心の表れでしょうね。

柏 生徒会が一番の悪者になっていると思います。なんでこんなめんどろなことをするんだ、みたいな。

宮腰 生徒会と生徒とのズレについては、なかなか複雑なものがあるようです。それを埋める為にボイスボックスが設置されたわけですが、まだ十分に活用されていないようです。そのことについて話を進めましょう。

西口 入っている意見に具体性が無いので、話しあうのが難かしいです。そのまま職員会議に出してもつぶされてしまうし。

佐藤 だからそういう場合は「自分だったらなぜそうした意見を出すか」という視点が重要だと思う。それを忘れるといけない。でもやっぱり、意見を出してくれる人には「こうしてほしい」ということをはっきり書いてもらいたいですね。

佐々木 時々生徒会に全く関係ない意見が入っています。これは生徒会が理解されていないからで、生徒会全体のPRが必要で、その意見を実現できなかったとしても、生徒にそのことをきちんと知らせるべきだと思います。

山川 まずは出てきた意見に真剣に取り組み、そのことを生徒にPRする。これが今後の課題だと思います。それで次に、生徒会と各専門委員会の関係について話しあ

てみたいと思います。

柏 各委員会にもっと注目すべきだと思います。本来なら専門委員会です話しあう問題がみんな総務にまわってくる。

谷口 自主性が無いですね。先生の言ったことを委員がやっているだけ、という気がします。

佐藤 生徒手帳によると、代議員会は総務と代議員、それに各委員長が集まって話しあう場なんですよね。でも今はそうならない。今そうした形にすれば総務と委員会の結びつきも強まるし、ボイスボックスの活用もできる。

司会 なるほど。しかし実際にそれをやるなら、今のままの代議員会の状態では意味がない。新総務が本気で取り組むのなら、今から変えていかなければならないでしょう。

川股 学級会で話しあう議題がない。あるとしても席替え程度です。本当は学級会が活発ならボイスボックスは必要ないんですね。

宮腰 話しあわれた内容を代議員会に持ってきてもらえばいいし、でも実際はなかなかそれができない。

岩間 生徒のほとんどは、自分が関係していないと無関心なんです。だから、もっと自分達が創っていく生徒会という意識を持たせることが必要です。

河元 だとしたら総務の方から何か学級会で話しあう議題をおろすというのがいいんじゃないでしょうか。

司会 そうですね。実際にそうするとしたら、生徒に最も身近な校則の問題について話しあってもらうのがいいのではないのでしょうか。

宮腰

ではその校則についてはどうでしょうか。

我が校の校則はそんな厳しくないと思います。生徒手帳にも曖昧な記述しかないし。ただ、曖昧なぶん先生によってとらえ方が違ったりする。それに「何が悪い」という明確な基準がないから、例えば生徒会の方で変えたくてもどう手を付けたらいいかわからない。

佐藤

先生方がどうして生徒に校則を守らせるかというと、一つ目には、もし違反をしたらそこから発展するかもしれない。二つ目は周りの生徒にも悪影響をあたえる。三つ目は、そういう生徒がうちの学校にいるというのを知られたくない、つまり世間体を気にする。この三つが校則の根底にあると思う。

柏

校則とまではいかなくても、何か僕らで新しいことをしようと思っても、先生にだめだと言われることは多いです。

宮腰

けれども本当に変えていこうと思ったら、とことんまでやって、だめならだめなりに納得のいく説明を生徒にしないといけない。そうしないと結局生徒会は何もできないんだと思われる。

司会

そのとうりです。今までの話をまとめると、生徒に生徒会をもっと知ってもらい、そして参加してもらおう。出てきた意見はとことんまで取り組み、その結果を伝える。これが生徒会と生徒との関係を深める為の課題ですね。

柏

それでは最後に、柏君に今後の抱負を語ってもらいましょう。これからは、難しいことですが、今のまとめのような方針でやっていきたいです。その為には、話しあいの中で出た委員長もまじえた代議員会の実現を、今から取り組んでいきたいと思えます。



出席者

三年

小林 優

谷口 哲将

宮腰 聖子

佐藤 健太郎

二年

柏 充

岩間 政和

斎藤 真由美

金澤 秀司

山口 しのぶ

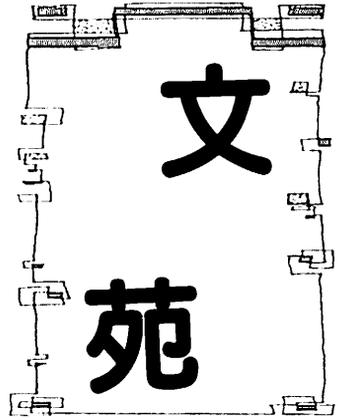
山川 加奈

一年

佐々木 智哉

河元 美佳

川股 礼奈



校内弁論大会

最優秀者論稿

中学生になって

一年A組 山内 淳

僕が中学生になってはや五か月。その中で、一番強く感じた事は、学習内容がとて難しく、量が多いことです。小学校の時は特にわからぬ所がなく、特別長い時間勉強しなくても十分理解できたので、毎日15分程度の勉強しかやらなかった僕は、先生や両親に、「中学校は2時間は勉強をしなければ。」と言

われどおしてした。僕はじっとしているのが苦手な性格で小学校時代も落ちつきがない、と言われてきました。そんな僕ですから、今でも毎日、一時間の勉強が精いっぱいです。英語という新しい教科もあり、学校の勉強だけではとうてい追いつけそうもないとわかっているのです、僕としては、努力しているつもりなのですが、中間テスト、期末テストなど結果を見せられると、小学校とのちがいを思い知らされます。たった一点のちがいで、順位は確実にちがってしまうことにショックを受けてしまいました。

そしてもう一つ。夏休みの課題が多いのはおどろきました。各教科ごとに出るのでかなりの量になってしまいました。夏休みはのんびりできる、と思いきや、僕には、またまたショックです。まず時間の使い方を工夫しなければならぬと、ようやく気がつきました。だから、勉強の他、部活、新聞配達、塾など全部こなしている友達がいる、と聞いて、「すごい。」の一言。僕は、部活と勉強だけでも自由時間がない、と困っているのに時間の使い方を教えてほしいくらいです。中学校に入って初めての経験としては、部活動があります。運動部は練習がきつい、などの話を耳にしましたが、僕は前から入

りたかった野球部に入部しました。うわさ通り練習がきつく、初めの頃は足が痛くて歩けなくなつたこともありました。それに入部したばかりなので雑用も多くまとまらぬ練習を受けられませんでした。最近になってやっと野球の練習も受けられるようになったので三年間は続けたいと思っています。

中学校生活は三年間しかありません。小学校六年間に比べると、あつという間に過ぎてしまいます。受験の事、高校の事、将来の事と考えなければならぬ事もたくさんありますが、実際のところ、僕はまだ将来の進路もきちんと決っていません。受験などまだまだ先のこと、と思つています。それよりも、友達をたくさん作りたい、自由な時間がほしい、それが実感です。ただ、後から後悔しないように、一日、一日を大切に過ごす努力をしていきたいと思っています。

僕がいつも言われている言葉に、「今日出来ることは明日に伸ばすな。」という言葉があります。部活で疲れて帰った時などは、勉強をしないで寝てしまうことがあるので、そう言われるのですが、頭ではわかっている、なかなか実行できません。他の人は、こんな時どうしているのか、と考えるてしまいます。

僕は、小学校時代から習い事や塾などは、一度もいかなかったので、学校以外は自由で遊ぶ時間もたくさんありました。それだけに、よけい今の中学校生活がきゅうくつに感じてしまうのかもしれない。僕は、まだ中学生になりきれずに、中途半ばなままだいるような気がします。

これからは、一日の生活設計を立て、時間を有効に使い、学習時間と自由時間とのけじめをきちんとつけるようにして、もう少し自分にきびしくして、より自分自身を高めていきたい、そう思っています。

事故は命がけより心がけ

二年D組 吉田 由貴子

現在、交通事故は極めて深刻な事態になっています。

特に交通死亡事故が去年をはるかに越える勢いで激発し、過去に例を見ない異常なペースで発生しているのです。

今年初めから多発傾向にあった道内の交通事故による死亡数は、八月に入ってから激増し、一日平均約四人の人数が亡くなっているそうです。今年これまでの合計は約三百三十人で、去年の同じ時期に比べて四十人以上も

増加しているのです。

その中で、今若者達による死亡事故が増えているそうです。

なぜ若者達による事故が多いのでしょうか。私は、免許証をとって運転すると、事故にあったらどうしようなどと不安に思うことよりも、スピードに対する好奇心の方が強いからだと思います。

それに、どこかで自分の腕を過信しているのではないのでしょうか。

死亡事故はほとんどが自動車による事故ですが、自転車などの事故においても危険なことに、変わりはありません。

私の母も歩行中に自転車にぶつけられてしまい、それからもう一年半もたちますが、今だに正座どころか、横すわりもできない状態です。自転車程度の事故でも被害者にとっては大変な事故になる事もあるのです。

今や、青信号だからといって安心して渡る時代ではなくなりました。それだけみんなが交通ルールを守らなくなり、自分勝手な行動をとる世の中になったのです。

このせまい日本の中、自動車の数は増え続けています。たしかに自動車はとても便利で私達の生活に役立っています。

しかし、そんな自動車も次から次へと事故

をおこすようになってしまったのです。これではせっかくの自動車も人を傷つける凶器へと化していくのではないのでしょうか。

今の人々は他人を思いやる心づかいに欠けている。自分が急ぐから、自分が、自分がと自分のことしか考えていない。もっとお互いにゆずり合う心を持って、もっと周囲を気づかって見ると悲しい事故も減るのではないのでしょうか。

死亡事故の場合、みなさんがその立場だたとすると、くやしいとは思いませんか。まだこの先、何年も生きられる命を持っているのにたった一つの事故に遭ったためにその命を亡くしてしまうのです。

事故の悲劇というものは、被害者はもちろんのことですが、加害者や被害者の家族などにも及んでしまいます。

そんな悲劇をくり返さないように今私達は交通ルールを守るとともに、交通事故の防止に取り組んでいかなければなりません。

これから先、いつどこでどんなことがおこるか分かりません。ですからどんな時にも油断は禁物なのです。

事故は命がけではありません。事故は少しのミスや油断などから生まれるものです。それは、その人の心がけしただいで変えられてい

けることではないでしょうか。

感動のバルセロナ

三年E組 三好美和

バルセロナオリンピックで私が一番に感動したのは、「女子マラソン」です。

エゴロウ選手と激しいデッドヒートをくり返し、惜しくも銀メダルに終わりながら、金メダルのエゴロウ選手に花束をさりげなく渡した有森裕子選手。

そこで私は、有森選手のその姿に興味をもち調べてみると、そこにはたくさんの「ドラマ」がありました。

生後二ヶ月で両足の股関節脱きゅうになり、また、京都の女子駅伝に選ばれながら、貧血に災いされ、走れず帰ってきた時もありました。

高校の時、陸上部に入部しようと、入部届を監督に出すと、「実績がないからだめだ。」と断わられてしまいます。しかし有森選手は、あきらめることはありませんでした。監督が断わっても断わっても練習を見に行きます。

「ぜひ入部させて下さい。私はマラソンがしたくてたまらないのです。」と、再度監督に自分の気持ちをたたきつけて

入部を許可してもらいます。

みなさん、そんなにしてまで、入部を許可された有森選手をどう思いますか？

私は、これまでしてマラソンをしたい熱意こそ、銀メダルを獲得できたエネルギーだったのだなと思いました。

しかし有森選手は、良い記録を残せないままの無名の選手として、そればかりか、招かれざるランナーとして大学を卒業し、リクルートへ入ります。リクルートでも、一度は入部を断われています。

けれども有森選手はくじけず、たとえ困難があっても、自分の決めた目標にぶつかっていくまっすぐな熱意と一生懸命さ、これこそが一つ一つの可能性の扉を開いていったのです。

この有森選手の可能性に向かって、自ら望んで挑戦していく姿勢こそが、一九九〇年の大阪国際マラソン六位、昨年の世界陸上四位と徐々に花を開き、バルセロナで銀メダルという大きな実を結んだといえるでしょう。

実に、人見絹枝さん以来の六十四年ぶりの銀メダル。

有森選手は、次の目標に向かう新たな出発について、「またスピードが足りず、勝つレースが出来ていない。一からやり直し、優勝し

たい。」と語っています。

21世紀は目前です。この世界は誰もが予測できない、複雑で変化の激しい世界になると考えられています。この世界をになうのは、確実に私達一人一人です。

みなさんも、高校進学や将来について、たくさんの目標や大きな夢を描いていると思います。

時には、自分の思うようにいかないこともたくさんありますが、その時にこそ、有森選手のように自分の可能性を信じ、努力を積み重ねる大切さを学び、「もう一度、一からやり直し優勝したい。」というチャレンジ精神で私達も生きてみようではありませんか！



俳句(三年)

思い出の修学旅行

東北地方の旅を詠む

初夏の風身にうけながら舟下り

遠山の残りし雪に見とれつつ

往時しのぶ金色堂のたたずまい

遠き日の歴史を語る長き坑道

青々と続く奥羽に道ひとつ

げいび溪広がる万緑川下り

初夏のもとジンギスカンに満足し

龍泉洞外は明るく初夏の風

夏の色岸辺にあふれるげいび溪

万緑の背にそびえ立つ白き山

中尊寺 ゆれる木々から初夏の香り

龍泉洞ひかり輝く神秘の水

旅の宿夜は必ず怒られる

意を込めて作る玩具は上出来なり

青い水心動かす龍泉洞

みちのくへ胸ふくらませ旅行に出る

三代の夢もはかなき中尊寺

高原の宿への道にふきのとう

ホトギスカンの周りで飛び遊ぶ

夏の夜旅の支度につけていく

平泉我が身にしみる歴史の重さ

坑道の歴史の道を歩みけり

宿の夜騒ぎもいつしか夢の中

布施 央

後藤 淳

相場 尚人

嶋田 亜樹

長内 陽子

伊藤絵美子

佐藤 圭子

荒井真由美

穴倉 誠

埜中 千鶴

橋爪 有希

米内山朋子

吉江 美雪

岩高し初夏の涼風げいび溪

蒼き水したたり落ちる龍の涙よ

船頭の歌若葉の中で響きけり

東北の片富士眺め初夏の風

万緑の草木のびゆく旅の道

水芭蕉旅の疲れをいやす香り

初夏の竹月見の坂の空覆う

自己主張曇天に貫く獅子々鼻

げいび溪見事な景色いい眺め

水鏡青葉を映しゆれにけり

田園のいねの葉ゆれるそよ風に

初夏の木々気持ちゆるやぎ川下り

げいび溪川の流れに鮎泳ぐ

田口 謙一

吉田 潔

服部 智行

佐藤 千草

小笠原さおり

松尾エリカ

久留利菜菜

小林 優

池田 明

漁 美由紀

紫前 裕子

張間 真人

山根誠太郎

旅の宿話がつきず眠れぬ夜

板谷 忠典

三代の悲しみ光る金色堂

蝦名 孝康

にわか雨車窓に映す暗い顔

宮腰 聖子

早朝にさわやかさ迎ぶカッコウの声

今井 里子

バスの窓三陸の海に船ひとつ

斉藤 康一

五月の旅思い出を乗せ函館へ

長内 美穂

舟下り初夏に涼を呼ぶ川の石

工藤ひとみ

五月晴れ湖畔に鮮やかたつ子像

高橋 利雄

みちのくの天気きにして旅に立つ

伊藤 嘉展

田沢湖の湖面にうつる青い空

今井 貴之

げいび溪涙を流す岩の顔

中者 徳子

溪谷にげいび追分こだまする

松居 佳子

バスの中友の寝顔に我も眠る

三浦 一弥

風薫る緑の中を舟下り

村山めぐみ

駅に降り家族の迎えに顔ゆるむ

長内 睦子

旅に疲れ行くてまかせの汽車の中

山崎 美穂

木漏れ日の月見の坂を風とおる

藤島 昭吾

涼しげなげいび溪での舟下り

藤井 麻子

げいび溪流れる水の青さかな

鈴木 文仁

あわただし電話もできずに暮れる宿

川淵 愛

美しさにわれを忘れるげいび溪

藤田 一行

暗がり一滴が光る龍泉洞

木下 真弓

龍泉洞心洗わる清き水

岡田 静香

そよ風に背中押されて舟下り

石田 千枝

地下水に心とられる龍泉洞

小林 亨

遅咲きの桜なつかし中尊寺

笹木 香織

旅に立つ心もうきうき五月晴れ

三好 美和

中尊寺青葉の陰からそびえ立つ

北野 照美

頂きに白い雪残す岩木山

岡山智恵子

バスの旅ゆらゆら揺れて眠くなる

玉森 博和

げいび溪繁る若葉に鳥歌う

青木 順子

船頭の歌声ひびくげいび溪

西口 勇

バスに乗る五月の空に声はずむ

佐藤 史明

洞窟の地底湖鮮やかエメラルド

金丸めぐみ

山の道夏めく畑に白い花

松田 直人

長い夜トランプ遊びに手がはれる

伊藤 香苗

川下り鮎の踊りに瀧の音

丸井 景子

神秘さに言葉少なく龍泉洞

高野 貴之

暗闇にどこまで背く地底の水

植田ひとみ

短歌(二年)

たば風に吹かれ吹かれて寒そうにひとりたたずむ開陽丸

清水 陽子

幕末の最期を賭けて戦った悲運の船よ開陽丸

砂原 広美

空を背に翼広げるかもめ島見下るすかもめ何思うかな

斎藤真由美

高台の資料館めざし暑い中ひらすら歩く急な坂道

吉田由貴子

初夏の暑き日ざしを受けながら調べ歩くは自主研修

本庄 智志

民謡の古い歴史に花咲かせ清らかな歌江差追分

佐藤 康三

北国の厳しい寒さに負けはせず元気に歌う江差追分

王 彩

夜になり蛙の鳴き声聞きながら外の景色を眺め見るなり

中者 玲子

美しい江差の景色眺めると夏の暑さも吹き飛んでいく

松木 寿美

会館に江差追分なりひびき拍手喝采想い出となり

府岡 乙絵

窓の外静まりかえる闇の中蛙の声に驚かされる

館下ひとみ

追分の代々伝わる民謡が現代っ子にも受け継がれいく

今津 那智

旅先の宿で疲れをいやすとき友の語らいをうとうとと聞く

田村 徹

江差には思い出残る風景が今なお映る私の目に

木村 智美

水音に心洗われ目をあげば鯉の鱗に月光たり

吉田 広志

青空の下ひっそりとたたずめり佐之市の碑よ東別院

辻口 浩子

その昔にしん漁でにぎわえり江差の町もひっそりとして

鳥山 悟史

人々の心を洗う歌作り今も残るは江差追分

四十物谷貴子

江差での蒸し暑かった思い出は今も心にひっそり残り

五十嵐ひろみ

日盛りの中を二時間歩いても少なき資料の悲しきことよ

稲岡 優子

餌やれば我が物なりと魚たち尾びれをふりて格闘をする

蒲生 豊

追分の歌を聞きつつうとうとひとりポツンと広い部屋の中

小林 良美

川柳(二年)

お正月子ども天国親地獄

児玉 雄介

傘持たず家出た時に雨が降る

佐々木智哉

冬休みあつという間に始業式

白鳥 貴之

雪が降り木々たちまでも衣がえ

秋田 早苗

寒い朝目覚しかけても起きられず

佐藤 純子

雪降ると父さんあわててタイヤかえ

新屋 由佳

新聞で最初に見るのはテレビ欄

漁 亜沙美

百円でジュースを買いえない空しさよ

野口 淳子

雪が降り我が家の犬は寝てばかり

藤田 祐子

亀田川もとの姿になってくれ

上坂 潤

宿題で遊ぶひまない冬休み

長内 潤

宿題を忘れてあわてる冬休み

長内 良二

お正月楽しむ前に腹痛に

佐原 耕一

不景気でケーキも売れぬクリスマス

網森 史泰

大みそか夜にふうふうためきそば

中村 知倫

正月は渋滞する日混み合う日

吉澤 宣幸

大掃除やった方がいいが片付かず

葛西 志栄

靴跡に靴跡重なる雪の道

成田実咲子

ソマリアに平和がとどけみな願う

山崎 千穂

リサイクル未来へ向けての第一歩

小川 克哉

雪降らず傘の花咲く十二月

佐藤 大

スケートは転ぶためのスポーツだ

菅原 宇央

不況でも枚数変わらぬ年賀状

千賀 啓市

音楽の神童五才で作曲し

波間 隆利

冬期間寒さこらえて部活動

三沢 俊也

宿題をやるぞと思えば眠くなる

久留利浩代

寒い朝目覚し時計いやな音

高村 美季

年とればうれし悲しの誕生日

藤原美和子

初もうで姉の合格祈ります

森 葉子

少しでも減ってほしいよ死亡事故

笹木 浩行

朝寝坊いつもより友早く来る

宮崎 慎一

左手に持ってるメガネ探してる

村上 和也

日本中バブルがはじけ不景気だ

長内 啓子

宇宙には未知のできごと星の数

河元 美佳

寒い夜滑って転んで熱くなり

佐藤 明希

目がさめて休みと気づきまた眠り

藤田 美香

年賀状猿が立ち去り鳥がまう

松倉 智美

⊕⊕⊕ 体験文 ⊕⊕⊕

野球部のマネージャーを通じて得たもの

三年B組 金城 英玉

それは、突然の出来事だった。修学旅行の一日目、汽車の中で、先生に野球部のマネージャーを頼まれたのだ。マネージャーと、いつでも、試合の時にスコアをつけることぐらいいだったが、その小さな仕事の中で、ある大きなものを得た。

私がマネージャーとして、試合に参加したのは、忘れもしない五月十七日曜日、五稜対戸倉の試合である。開始時間は十時からだったので私は九時半頃に、五稜のベンチに入っていた。私は初めての経験で要領もわからずに、みんなの練習ぶりを見ていた。しばらくして、ある選手がキャッチミスをした。すると部員みんなが、「がちり。」などと声をかけていた。何の気なしに見ていた私も、その時は、部活とはこういうものかと実感した。部活とは一つのスポーツを、目標に向かって助け合いながらする。単純なことではあるが、部活の経験がない私はとても感動した。誰かがミスするたび、先生に怒鳴られるたびにみんなの励ましの声が聞こえてくる。私は励ま

しの声を受けた人以上に感動を覚え、勇気がわいてきた。もし、私がマネージャーをひきうけなければ、「助け合い」というとても大切なものを忘れ、一生気付かずに過ごしていたかもしれない。そう思うと、こんな私にマネージャーという仕事を通して、大切なものに気付くきっかけをくださった先生に、感謝の気持ちでいっぱいになる。

そして、これとはまた別の感動を覚えたのは中体連だった。一日目、五稜は新川と対戦した。私の気持ちに余裕は少しもなかった。スコアをつけている時も手が震えて、字になっていないようなのもあって何度も書き直した。点数が入った時は、声に出して喜びたかった。結果は四対〇で勝利を収めた。すごくホッとした気持ちだった。友達が「すごかったね。よかったね。」などと言ってくれても、私は言葉に言い表せないくらい嬉しかった。

しかし、大会四日目五稜対本通の試合は、思いもかけない展開となった。結果二対〇で五稜は完敗。選手達の目からはたくさん涙があふれていた。とてもくやしかった。スコアブックを投げ出してずっと応援していたかった。くやしくて、くやしくてたまらなかった。その日、寝る時に頭の中で試合が再生されて、くやし涙を流した。一週間くらいは、試合の

ことが頭から離れなかった。その時、私は「私はみんなと一緒に戦ったんだ。ピッチャーと同じマウンドに立ち、バッターと同じバットだけじゃない。みんなと一緒に、ずっと今まで戦ってきたんだ。」と、初めて気が付いた。感情のないスコアならロボットだってできる。私が書いたスコア一ページ、一ページには、私の気持ちが刻まれている。

だから、試合が終わった後、嬉しかったり、くやしかったり、ホッとしたりする。

今までに、こんな気持ちになったことはなかった。だからこんなにたくさんのお切なにもに気付くことができるきっかけを与えてくれた先生や、部員みんなに「ありがとう。」と心からお礼を言いたい。私のマネージャーの経験は決して無駄じゃなかったと思う。

そして、これからはルックスも性格も違う部員達が、「明日も、勝つぞ。」と、声を合わせて誓っていたことをいつまでも忘れずにいようと思っている。



◇◇◇ 読書感想文 ◇◇◇

「南の島へいこうよ」を読んで

一年D組 岡田 智子

この本には、地図にさえ記されていない、小さな島、ミクロネシア・サタウル島の生活が書かれていました。私はこの本を読んで、今の日本の生活がはたしていいのか考えさせられました。

この島では、生活していくうえで必要なのは、全て島にある木や葉等を使って作ります。ほとんど外国から輸入しません。そして、今の時代では考えられないかもしれません。交通手段は全てカヌーです。又、驚いたことは、パンノキという木の実だけで30種類以上の調理ができることです。ここには、ガスも調味料も、お皿もナイフもフォークも何もありません。火は木かマッチでおこし、お皿やテーブルのかわりにバナナの葉を使います。このような生活を「原始的だ。」という人もあるかもしれませんが。しかし、もし原始的であれば自炊していきませんか。火をおこす方法さえ、知らないのではないのでしょうか。だから、この島の人は発想が豊かで、工夫するということにとてますすぐれていると

思います。

サタウル島と比べて日本はどうでしょうか。確かに、違う意味で文明は発達していますが、機械やお金に頼りすぎてはいないでしょうか。その生活が当り前だと考えている人が多いのではないのでしょうか。

確かに、今の生活が成り立っているのは、どうしたら便利に暮らせるかを考え、アイデアを出し合った結果だと思えます。でも、その「便利さ」を追求するために、必要以上のものを作り、自然破壊をしてきました。このままでは将来自滅するかもしれません。一度こわされた自然は、もう元には戻りません。もし、戻れたとしても、何百年、何千年という年月がかかることでしょう。

また、私は今の日本人の考え方についても思い返してみる必要があると思えます。今の私達の第一の仕事、しなければならぬ事は「勉強」です。これは当然の事だし、一生懸命にやらなければならない事だとも思えます。でも、最近では将来の事とか、高校、大学への進学のためにばかり、その事を考えている人がふえてきているように感じます。

私は、今中学生としてしなければならぬ勉強は何か考えてみました。一口に勉強といっても、ずいぶんいろいろな勉強があるので

ないかと思えます。授業で教わる九教科の勉強、これはいろいろな知識を身につけるために必要です。でも、本当の勉強とはそれだけではないと思えます。学校生活の中でも、部活動、いろいろな行事、そして、友人とのかわり合いを通して、私達は生活の知恵を身につけていきます。これも立派な勉強だと思えます。

たとえば、もし私達が何も無い、名前も知らない小さな無人島で暮らせといわれたら、はたして暮らしていきませんか。今は、どこに行っても店や自動販売機があり、何一つ不自由なく食べ物が手に入ります。でも、無人島にはそのような物は一つありません。すべて自分で作らなければ生活していきません。知識だけでは生きていきません。私自身も含め、家での手伝いや学校の仕事を、めんどろくさがつてやらない人がいると思えます。そういう人は、もしもの時を予想し、考え直してほしいです。

最後に、サタウル島の人の暮らし方と、日本の暮らし方のどちらがいいなんて決められません。これからはいい所を見習って、自然を大切に生活していけたらいいと思います。

○編集後記○

さあ、皆さん。最後のページまで読み終えた感想はいかがですか？パラパラとページをめくって写真だけ見ていた人は、もう一度最初からじっくりと読んでみて下さい。それから一字一句もろさず。友達や先生が書いた文章をニヤニヤ笑いながら読んでいた人は、一枚一枚の写真をすみからすみまで見て下さい。それはもう穴のあくほど。

—そこには、たとえとぎれとぎれでも、たとえ断片だけでも、たとえ照れ笑いのペールに包まれていたとしても、必ず私達の姿があるはず。その一瞬の中に、過ごしてきた日々の中に、不確実な明日に向かって走り続けた道の中に、私達は存在しているはず。その「存在」を苦心して一冊の本にまとめた結果、今年の「五稜」ができました。

私達は走り続けなければならない存在です。そんな私達の来た道をこの本に記すにあたり、様々な御協力を賜った先生方、職員の方々、生徒の皆さん、各方面関係者の方々、どうもありがとうございます。おかげで私達の来た道に立派な道標を立てることができました。

(編集委員長 小林 優)



☆編集委員☆

【三年】

小林 優

谷口 哲 将

宮腰 聖子

佐藤 健太郎

波多野 裕介

橋爪 有希

松尾 エリカ

柴谷 勝徳

高野 貴之

金澤 秀司

市島 佑起子

伊藤 嘉邦

館下 ひとみ

山名 梨絵

【二年】

佐々木 智哉

河元 美佳

川股 礼奈

【顧問】

大村 俊幸先生

内木 竜先生

【二年】

柏 充

岩間 政和

斉藤 真由美

表紙作品

巻頭詩・カット 三年

表紙構成

グラビア

増川 健二

大島 典子

吉田 宏先生

辰宮 稔先生

松山 元彦先生

平成四年度生徒会誌

「五 稜」第32号

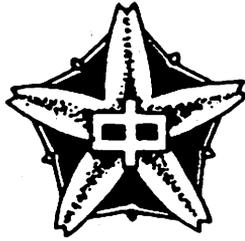
発行日 平成五年三月十五日

発行 函館市立五稜中学校

生徒会

印刷 (有)久保内印刷所

函館市豊川町七一二六
電話(0136)311-2678



函館市立五稜中学校生徒会